経典餘師

論語三

三井銀行

口 11
1029
4

論語朱熹集註

先進第十一

子曰先進於禮樂野人也後進於禮樂君子也

先進後進ハ皆ナリ禮樂ニ於テ得ヲ貴ナリ然ドモ其ノ中ヲ得ルヤ否ヤハ則チ時ノ人ノ後ニ從ヒテ次第ヲ審ニシテ忘ル可カラズ野人ハ謂ヒ鄙ナリ君子ハ謂ヒ禮樂ヲ以テ其ノ身ヲ治メ而シテ餘ヲ以テ人ヲ治ムルナリ先進トハ先代禮樂ノ道ニ進習スルヲ謂ヒ後進ハ今時ノ人ノ禮樂ニ於ケルヲ謂フ然ドモ其ノ風俗ハ禮樂ノ文ナリトイヘドモ質朴ニシテ古ノ意アリ今時ノ人ノ禮樂ハ文ナリトイヘドモ其ノ實ヲ失フ小田野人ノ如ク野鄙ナリトイヘドモ其ノ實ヲ失ハズ聖王ノ作ヲ制スルヤ禮樂ヲ以テ其ノ身ヲ治メ而シテ餘ヲ以テ人ヲ治ムルナリ故ニ君子ヲ以テ之ヲ稱シ而シテ野人ヲ以テ之ヲ貶スルナリ

子曰先進於禮樂野人也後進於禮樂君子也

如之ヲ用ヒバ則チ吾先進ニ從ハン

如之ヲ用ヒバ則チ吾先進ニ從ハン

我ニ陳蔡ニ從ヒテ皆門ニ及バズ

我ニ陳蔡ニ從ヒテ皆門ニ及バズ

○子曰從我於陳蔡者皆不及門也

○子曰從我於陳蔡者皆不及門也

吾ハ先進ノ心ヲ信ジ實ノ方ニ從ヘリ

吾ハ先進ノ心ヲ信ジ實ノ方ニ從ヘリ

三井銀行

門口 號 1029 卷 4

德行ハ顔淵閔子騫冉伯牛仲弓言語ハ宰我子貢政事ハ冉有季路文学ハ子游子夏

聖人曽て楚の國へ行時陳蔡の處にて圍の入難義の拆り附從し御門弟を思ひ出し拆り座上に並居るへき仕官をなして當時御門中に不及ふとなり德行

顔淵閔子騫冉伯牛仲弓言語宰我

御座に侍り方々ハ先顔子を第一として身の大德なるへし閔子騫ハ伯牛仲弓の四人なり言語

冉有季路文學子游子夏

我子貢二人なり政務の事に通ずるハ冉有季路なり文章に巧なるハ子游子夏なり

以上十人なるへし人々ハ或ハ古郷へ帰り或ハ陳蔡の圍に

拆り御側に在し季路の事

○子曰回也非助我者也於吾言無所

顔子を激賞せられし御詞かくのごとし

不説

顔子を激賞せられし御詞かくのごとし

仰せふハ自余の門人ハ或ハ疑の問答などもあつて

道德を吟味もするものなれ共顔回ハ何の問答もなく學問の助ふハ益ある者と非ず然ども吾言処の事ハ於て心よく説ことばざると

○子曰孝哉閔子騫人不間於其父母昆弟之言

閔子騫ハ孝行なる哉と見て其父母昆弟も親類

いつれも閔子騫の舉動をとやかくと譽ようなき譽ども他の人も其父母兄弟のいふ処を尤と同心あつてこの間非もなく其苦の事と嶌もせぬなどハなかりしのみ

○南容三復白圭孔子以其兄之子妻之

南容ハ讀の深き御人にて詩辞を妄に出さゝる常に詩經の白圭の篇を三度も誦へ復ようとハ白圭とハ玉の疵さなう其疵の心ハ白圭の玉ハたとへ珉出来ようとも磋磨ふれバ元の玉となる

子曰まハく回ハ我を助る者小非ず吾言よ於て説こハ不所ろ無

孝なる哉閔子騫人其父母昆弟之言を間セ不

南容白圭を三復を孔子其兄之子を以て之よ妻と

季康子問弟子孰爲好學孔子對曰有顏回者好學不幸短命死矣今也則亡

季康子魯の大夫季孫肥の諡なり○顏回なる者有て學を好む不幸短命にして死を今ハ則ハち亡

顏淵死顏路請子之車以爲之椁

顏淵死を顏路子之車以て之が椁を爲んと請ふ

子曰才不才亦各言其子也鯉死有棺而無椁吾不徒行以爲之椁以吾從大夫之後不可徒行也

才不才亦各其子を言鯉死有て棺を椁無吾不徒行を以て之が椁を爲ら不吾大夫之後に從を以て徒行なるを可ら不

顏淵死門人欲厚葬之子曰不可顏淵死を子之を哭して慟を從者曰く子慟を

門人欲厚葬之子曰不可門人厚く之を葬んと欲す子曰く不可

門人厚く葬んと欲す

顏淵死子哭之慟從者曰子慟矣

顏淵死を子之を哭して慟を從者曰く子慟を

顏淵死子曰噫天喪予天喪予

顏淵死を子曰ま噫天予を喪ぼせ天予を喪ぼせ

論語吾三　三十一　王氏經典餘師

曰まハく慟まることを有乎
夫人之為に慟まるに非して誰が為にせん

顔淵死と門人厚く之を葬んと欲まを子曰まハく不可なり
門人厚く之を葬
回や予を視て父の猶し予を子の猶くを得不我に非ざるなり夫二三子也

顔淵死去ありけれバ聖人殊の外に御惜ありて哭に御出ありて餘に御悲みつよく御涙落を変じ
たまひし従者の曰ゆう聖人にハらぶさしてかくまでハ慟したまふやとなり慟ハかなしミ過ぐる貞なり

曰有慟乎　自ら身が慟しかをハせしてのさまに夫ハ語勢慟セし事のありや　非夫

人之為慟而誰為　又師セふ誠に夫人の為に慟セずして餘人に慟せんとなり
慟哭まるほどの人ハなきりのをとなり

○顔淵死門人欲厚葬之子曰不可

顔子の御門人衆より寄厚く御葬式をなさへ願ふるまことに聖人の御に聴ぎ可ならず

門人厚葬之　つゐに厚く葬いとなミ　子曰回也視予猶

父也予不得視猶子也非我也夫二三

季路鬼神に事ることを問子曰まハく未ざ人に事ることを能ハ不焉んぞ能鬼に事ん敢て死を問曰まハく未ざ生を知未焉んぞ死を知ん

子也　此ハ厚葬の事に付て聖人思召にハ叶ハヤのりて依して此言あり
顔回常に予を愛して父の猶く親らく敬まひし
に今予ハ子の猶く致さまて能まど是全く我に非ずして汝の門人夫二三子の輩なりとぞ

○季路問事鬼神子曰未能事人焉能
事鬼敢問死曰未知生焉知死

鬼神とハ吾が先祖の神霊をいふ子路の問なり鬼神に事まうじくりと忠ざしの神霊に通ずるの道ありやと
御対に凡そ人の道を尽し君父に事奉まつりて忠孝の誠を尽さずどなられバ祭りでまことの一念の誠によりて鬼神
自から来格まるの理なり生る世に誠を尽し事をざるも能で焉ぞ鬼神に事ることあらんや子路さらに死のことを
問奉まつる御答ふ生の理を知ずして焉ぞ死の理をと知べけんやとも人の世に生出ゆへんの理をよくしれバ又死去る所以の理を
求めもとむべしたとへバ死をさるべき時ハ死せざる時ハ死すべきよりも甚だしき辱あるとも生の理にかなへばその事をも推てまるべし

閔子侍側誾誾如也子路行行如也
冉有子貢侃侃如也子樂
折ふし聖人の御側に有りし
侃侃は行義の体なり
若由也不得其死然
聖人心に思召
○閔子侍側誾誾如也子路行行如也。
冉有子貢侃侃如也。子樂。
折ふし聖人の御側に有りし
侃侃は行義の体なり
若由也不得其死然。
聖人心に思召

閔子騫曰仍舊貫如之何必改作
閔子騫曰。仍舊貫。如之何。必改作。

魯人長府を為
閔子騫曰く舊
貫は仍之を如何
何ぞ必らず改め
作らん
○魯人爲長府。
閔子騫曰。仍舊貫。如之何。必改作。

夫人言いハ不訫バ
必らず中ること有
由之瑟奚ぞ丘之
門より於て為
夫人言不訫。必有中。由之瑟奚爲於丘之門。

門人子路を敬せず
子曰まハく由堂
より升る未ざ室より
入未
門人不敬子路。子曰。由也升堂矣未入於室也。

魯人長府を為
閔子騫曰く舊
貫は仍之を如何
何ぞ必らず改め
作らん
○魯人爲長府。
閔子騫曰。仍舊貫。如之何。必改作。

夫人言いハ不訫バ
必らず中ること有
由之瑟奚ぞ丘之
門より於て為
夫人言不訫。必有中。由之瑟奚爲於丘之門。

門人子路を敬せず
子曰まハく由堂
より升る未ざ室より
入未
門人不敬子路。子曰。由也升堂矣未入於室也。

閔子侍側誾誾如也子路行行如也
冉有子貢侃侃如也子樂
折ふし聖人の御側に有りし
侃侃は行義の体なり
若由也不得其死然
聖人心に思召
○閔子侍側誾誾如也。子路行行如也。
冉有子貢侃侃如也。子樂。
折ふし聖人の御側に有りし
侃侃は行義の体なり
若由也不得其死然。
聖人心に思召

閔子騫曰仍舊貫如之何必改作
閔子騫曰。仍舊貫。如之何。必改作。

魯人長府を為
閔子騫曰く舊
貫は仍之を如何
何ぞ必らず改め
作らん
○魯人爲長府。
閔子騫曰。仍舊貫。如之何。必改作。

夫人言いハ不訫バ
必らず中ること有
由之瑟奚ぞ丘之
門より於て為
夫人言不訫。必有中。由之瑟奚爲於丘之門。

門人子路を敬せず
子曰まハく由堂
より升る未ざ室より
入未
門人不敬子路。子曰。由也升堂矣未入於室也。

夫人言不訫。必有中。
適く詞を発る時ハ道に合ひ中との御感なり
由之瑟奚爲於丘之門。
子路の氣質剛強にして和厚なく瑟をとうて躁ど
も殺伐として戦場相争の音声を催し中和の
道に叶ざるハ聖人深く御称美あり夫子常に謹て言らんと今
門人不敬子路。子曰。由也升堂矣未入於室也。
人の交ハ深きを以て他の御門人等子路を敬ハざる
室の深きに到ざるなり升堂ハ子路ハ中々平生の
人に異なり未入於室ハ自余の階下に連なる

子貢問師與商也孰賢子曰師也過商也不及

子貢常に人の器量を校ふこの好なる故に此問あり師とは子張の名なり商は子夏なり此二人らづきの賢なるやの問なり御對て子夏は篤實よく守て

曰然則師愈與子曰過猶不及

物に不及となり

子貢又曰く然ば子張は天地の道は中正の理に叶ふと貴ふべし何ぞよく過ぎたるは及ざる猶のごとしと誠に深き御巻なり

○季氏富於周公而求也爲之聚斂而附益之

魯の大夫季康子利を貪るの摂政周公の辛となりて諫ざる処に却て賦税聚斂を事とするの輩どもなり

子曰非吾徒也小子鳴鼓而攻之可也

聖人ふうく憎相聚て再求を諫誅べしとなり戦場にて攻るときは鼓鳴てあるなり

○柴也愚參也魯師也辟由也嗲

聖人ふうく御門人を評し給ふ柴は御門人の子羔にて愚は才知不足なるとは異なり古の愚は正方なり愚とは今の世の才智賢く却て直なる子羔ろも春土中より出る虫を殺さじと草木の方長を折ざるごとく教は人の道を学で之を得ふ師は子張なり高ぶりて見識高き辟あり子路は勇猛うして心荒く布嗲ぐしと

○子曰回也其庶乎屢空

回は其庶うん乎屢空し

賜不受命而貨殖焉億則屢中

賜は命を受ずして貨殖を事とす億は則ち屢中

賜不受命而貨殖焉億則屢中

賜ハ子貢なり命ハ天命の定まる
の場処と庶人なる哉實よく此人
屢〻よく空を逆ひ
とゝの者ハ各天命の定まる
然ども智秀ひ人なり
何事も道理正しくして
古人の行迹を切と践守といふも
違ふる悪しきもなきをもて聖人の室を窺ふ
なるべうざるをもて今ひとゝの君子の
善人と丈字の
入於室

子張問善人之道子曰不践迹亦不

子張善人之道を問ふ
問子曰まねく迹を
践不亦室に入不
論篤是與君子者乎色荘
者乎

子路問聞斯行諸子曰有父兄在如

子路問聞て斯よ之を行ふ
行ふ諸子曰まハく父兄在とを有
之を如何ぞ其聞
て斯よ之を行ふ
再有問聞て斯ふ
行ふ諸子曰まハく聞て斯よ之
を行ふ
公西華曰由問
聞て斯よ行ふ諸
子曰まハく父兄

之何其聞斯行之

子路の問奉ふ
聖人卿咎義理ハ元より行べきなれども
父母在まセバ其ハ行ざる理あり父母の為ハ身と
忍ぶとあるゆへ
斯行之

此段再有問聞て斯行諸子曰有父
兄在求也問聞斯行諸子曰聞斯行之

斯を行へ者聖人卿咎なり
義理よ當てハ早速よ行べき事のごとなり
公西華曰由也問聞斯行諸子曰有父
兄在求也問聞斯行諸子曰聞斯行之

在もとも有求問
聞て斯よ行ん諸
子曰まハく聞て斯
よ之を行へ赤惑、
ふ敢て問子曰ま
ハく求ハ退ぞく故
ゆへよ之を進む由
ハ人を兼ぬ故ゆへ
よ之を退く

子畏る顔淵
後子曰まハく吾
女を以て死ぬと
為曰く子在す回
何ぞ敢て死せん

赤也惑。敢問。子曰。求也退。故進之。由也兼人。故退之。 右御答異なるを以て公西華不審く思ひ依て此事を問奉まつるふハ子路ハ父兄在ますとのみ申冉求ハ之を行べしとのたまふ惑ハしく存る御答誠に冉求が人柄ハ本抑る氣質ありて故て之を進る者なり子路ハ中々人の事をも兼んと欲するの氣象あり此故に退て教しめのなりとぞ

○子畏於匡。顏淵後。子曰。吾以女為死矣。曰。子在。回何敢死。 巳上にも註如く聖人匡ニ圍みの時の鬪に中やく此処を免がれてその跡より顔子ハ後ぞ来る聖人曰ハく汝ハ大方に討死しなんと思ひし顔淵答て夫子恙なく在ますに何ぞ空しく死果んやとなり夫生死とも軽ずる八不知なり生べきされ生て死まべきに死をるなり君子ハ生死ともに不義ならぬそれ君父師の三ハよつて奉まつるハ恩義に於て命をもなげうつべし師とハ文武の道をうくる師といふなり

季子然問仲由
冉求ハ大臣と謂
可與

吾子を以て異
なる問と為
魯ハ由と求與
之問

所謂大臣なる者
ハ道を以て君に事
不可なれバ則ハち
止

今由と求與具臣
と謂可

○季子然問。仲由冉求。可謂大臣與。 季子然ハ魯の大夫季氏の連子なり名高き子路冉求の二人を臣としを自多に思ひ此問奉まつる此二人ハ棟梁の大臣ともいふべきものやとなり

子曰。吾以子為異之問。曾由與求之問。 聖人の御心れ今子問ところの子路冉求の二人を斯重く御尋る事にもいと異きことなり

所謂大臣者。以道事君。不可則止。 依て説のふ大臣といふべき人ハその道と正しからざる時ハ死を以て諫るかくり君用らきざる時ハ則ハち官祿を去止て潔白を保べきものなると大臣といふ

今由與求也。可謂具臣矣。 今子路冉求の如き八…

曰〻然ラハ則ハチ之ニ従ハン者與

父と君與とを弑する
よハ亦従ハ不

子路子羔を費の宰と為使
夫人之子を賊ふよ

子路曰ク民人有社稷有何ぞ必ず
書を讀て然ル
後よ学と為

是故ニ夫佞者を
悪む

家中の臣れ数よ具ハリ
大臣ふてハ
季子然ハ仰セを聞て右の二人大臣ふ者よハ主人
のふ処のまゝよ従ハべき者なるや

子曰弑父與君亦不従也

仰答此輩大臣ニハ
あらざる
道ハ身心よ銘じて
旨ハざるもの
死を厭ハて
八佾の舞雍徹の事を己が侭うて己よ君をも捨ハ
如き心あれバ之を
かくハ仰セらるゝ
在ル
子路先達て季氏
の為よ事用られて
挙て費の都の宰となるに
子曰賊夫人之
聖人此事宜ニ
凡て内よ徳を積ゞして早く身の務ふ
学のミちハ事
の神なる稷ハ五穀の神なる國家の万民を社稷民人
とふつなる言心
社稷もあるバ経済の道自然よ備ハるとなるべし
何ニよ書を讀教を聞のミふ心を必て
政道を学ふとを為とせん汗遠さとく

書然後為學

子路答奉まつる小ハ聖人の仰セられ
迂ニ遠きとこう鬼角空ニく
修行なるべきなる社ハ土地

子路曰有民人焉有社稷焉何必讀

悪夫佞者

聖人の本意ハ尤て本を務べく先学
で而后よ仕べきこそ是義理の正ニさ
なる今子路自己の理屈を極め雑話と以て徴奉する
と沙汰の限なる夫徳ある者ハ言寡く言辞を飾る者ハ

子路曾晳冉有公西華侍坐

子路曾晳冉有公西華侍坐（或曰聖人の御側にて）

吾一日爾よう長そうと以て吾を以てこうこうして毋き居バ則ハち吾を知不と曰如爾を知ことあらバ則ハち何を以てちん哉

子路率爾として曰く千乘之國大國之間よ摂まる之よ加うるに師旅を以てこれよ

多く徳を傷りの故よ聖人も禁ずるそ吾佞辯の者を悪と仰あり

○子路曾晳冉有公西華侍坐

曾子の御父曾晳并子路冉有公西華の輩坐ことう

子曰以吾一日

徒輩平生の所存を述て

長乎爾毋吾以也居則曰不吾知也

聖人仰あらハ今侍坐

如或知爾則何以哉

必ず一日ことも吾年長なることを遠慮そべうべし

爾而對曰千乘之國攝乎大國之間

とやん如ちこと知人あって準の輩を挙用

加之以師旅因之以饑饉由也爲之

なんよ何なる徳を以て名を顯とるや

子路率

汝等の常よふを聞バ世の人吾くう拙量を不知

因小饑饉を以

由之が為よ三年に及比勇有て且方こと知使可ー

夫子之を哂

求爾ハ何如對て曰く方六七十如くハ五六十求之が為よ三年よ及比民足使可其礼楽の如さハ以て君子こと俟ん

經典餘師　論語二　七

比及三年可使有勇且知方也夫子

哂之

一番よ子路志ざしと速そう最よ辞退為ざるよ率爾くそう急で曰ずたとへバ千乘の國あって敵の大國よ摂まって加之乱世師旅因之よ凶年饑饉なり如此の時節

求爾何如

山國を治むるなら三年の日数よ及比國中鎮のこなるバ下ぐふまで道を知ーろ義理よ方ひくやうよ使可こんのようなろ子路ハ勇猛の御人ゆへ〻く對へるひー聖人再召て御顔色

哂之

求爾何如對曰方六七十

如五六十求也爲之比及三年可使足

民如其禮樂以俟君子

聖人さく地方六七十里如や五六十里小国を為るバ大抵三年よ及で下民の困窮もなく向うよって再ハ何如仰かうう再求ー對て尓そ地方

心の足らざる有使べし然さう〳〵徳を施ほどこすよう事ハ別ニ徳ある君子を俟まちて得て学ぐべく行ひ一人の力ニハ及ぶべくもあらず

願學焉宗廟之事如會同端章甫願

赤爾何如對曰非曰能之

爲小相焉次ニ公西華の曰いふ只今仰せ遊ばされしことを能致べしと曰ふハ非を願ハくハ学ぶ

點爾何如鼓瑟希鏗爾舍瑟而作對

曰異乎三子者之撰子曰何傷乎亦各

言其志也 右四人の内列席の順を以ていくゞ子路の次ニ曾晳對ざる年長なり然ども瑟を鼓して有ゝなんとゝ〳〵バ聖人先三人ニ及て終ニ曾晳ニ問ハるゝ瑟も已ニ置て座を俠て對ふ音色も希なり鏗再とハ瑟の鳴響ハ

者暮春服既成冠者五六人童子六七

人浴乎沂風乎舞雩詠而歸夫子喟

然歎曰吾與點也

此三子の撰ニ異なりとハ點自の見識を述て曰く願くハ暮春の比冠者の年頃五六人童子六七人を誘引て沂水とらふる川の湯泉ニ浴し舞雩の地の高さ処へ登て涼ミ歌詠なぶらひて興ニ乗じて緩ゝ歩ミ帰ハ題社願志ざしを述聖人これを

子曰なまく何ぞ傷ん乎亦各其志ざしを言也

曰く暮春ニハ春服已ニ成冠者五六人童子六七人沂ニ浴し舞雩ふ風ニ詠じて帰うん夫子喟然として歎して曰まハく吾點ニ與せん

冠者男子二十ニなれバえて衣服を改あらため大人の冠と着るられと

顏淵第十二

顏淵仁を問ふ子曰く己に克て禮に復るを仁と爲す一日己に克て禮に復れば天下仁に歸す仁を爲すは己に由る而して人に由らんや

顏淵曰く其の目を請ひ問ふ子曰く非禮視る勿れ非禮聽く勿れ非禮言ふ勿れ非禮動く勿れ

顏淵曰く回不敏と雖も請ふ斯の語を事とせんと

仲弓仁を問ふ子曰く門を出ては大賓を見るが如くし民を使ふには大祭を承くるが如くせよ己の欲せざる所は人に施す勿れ邦に在りても怨み家に在りても怨み

仲弓曰く雍不敏と雖も請ふ斯の語を事とせんと

司馬牛憂へて曰く人皆兄弟有り我獨り亡しと

子夏曰く商之を聞く死生命有り富貴天に在りと君子敬して失ふこと無く人と恭して禮有らば四海の内皆兄弟なり君子何ぞ兄弟無きを患へんと

司馬牛仁を問ふ子曰く仁者は其の言や訒と

曰く其の言や訒之を仁と謂ふ斯に言ふこと難くんば之を訒と謂ふ可きに非ずや

子張明を問ふ子曰く浸潤の譖膚受の愬行はれざる焉遠しと謂ふ可きに非ずや浸潤の譖膚受の愬行はれざる焉明と謂ふ可きに非ずや

子貢政を問ふ子曰く食を足し兵を足し民之を信ず

子貢曰く必已むを得ずして去らば斯の三者に於て何れを先にせん

曰く兵を去らん

子貢曰く必已むを得ずして去らば斯の二者に於て何れを先にせん

曰く食を去らん古より皆死有り民信無くんば立たずと

棘子成曰く君子は質のみ而已なり文を何ぞ以爲ん

子貢曰く惜しいかな夫子の君子を說くや駟も舌に及ばず

文猶質のごとく質猶文のごとし虎豹の鞟猶犬羊の鞟のごとしと

哀公有若に問ふて曰く年饑用足らず之を如何せん

有若對へて曰く盍ぞ徹せざると

曰く二も吾猶足らず如何ぞ其れ徹せんや

對へて曰く百姓足らば君孰と與にか足らざらん百姓足らざれば君孰と與にか足らん

子張德を崇くし惑を辨ぜんことを問ふ子曰く忠信を主とし義に徙るは德を崇くする所以なり

人を愛すれば其の生を欲し其の死を欲す既に其の生を欲し又其の死を欲するは惑なり

誠に富まざるも以て富と爲すと

齊の景公政を孔子に問ふ孔子對へて曰く君は君たり臣は臣たり父は父たり子は子たりと

公曰く善いかな信に如し君君たらず臣臣たらず父父たらず子子たらずんば粟有りと雖も吾豈得て諸を食はんや

子曰く片言以て獄を折む可き者は其れ由か

子路諾を宿して退く

子曰く聽訟吾猶人のごとし必ずや訟を無からしめんかと

無情の者は其の辭を盡さず大に民志を畏服せしむればなり

本末を知る

子曰く本末有り事終始有り先後する所を知れば則ち道に近しと

古の人明德を天下に明らかにせんと欲する者は先づ其の國を治む其の國を治むる者は先づ其の家を齊ふ其の家を齊ふる者は先づ其の身を修む其の身を修むる者は先づ其の心を正す其の心を正す者は先づ其の意を誠にす其の意を誠にする者は先づ其の知を致す知を致すは物を格すに在り

物格れば而後知至る知至れば而後意誠なり意誠なれば而後心正し心正しければ而後身修まる身修まれば而後家齊ふ家齊へば而後國治まる國治まれば而後天下平かなり

自天子以至於庶人壹是皆以修身爲本

其の本亂れて而末治まる者否ず

其の厚くする所の者薄くして其の薄くする所の者厚くする未だ之有らざるなり

此を之れ知の本と謂ふ此を之れ知の至と謂ふなり

誠意

所謂其の意を誠にするとは自ら欺く無きなり惡臭を惡むが如く好色を好むが如くするを之れ自ら謙と謂ふ故に君子は必ず其の獨を愼むなり

小人閒居して不善を爲し至らざる所無し君子を見て而後厭然として其の不善を揜ひ其の善を著はす人の己を視ること其の肺肝を見るが如くせば則ち何ぞ益有らんや此を之れ中誠外に形はると謂ふ故に君子は必ず其の獨を愼むなり

曾子曰く十目の視る所十手の指す所嚴なるかなと

富は屋を潤し德は身を潤す心廣體胖なり故に君子は必ず其の意を誠にす

正心修身

所謂其の心を正すに在りとは身忿懥する有れば則ち其の正を得ず恐懼する有れば則ち其の正を得ず好樂する有れば則ち其の正を得ず憂患する有れば則ち其の正を得ず

心在らざれば視て而見えず聽て而聞えず食ふて而其の味を知らず此を之れ身を修むるは心を正すに在りと謂ふなり

身を修むるは其の心を正すに在りとは人其の親愛する所に之て而辟せざる莫し其の賤惡する所に之て而辟せざる莫し其の畏敬する所に之て而辟せざる莫し其の哀矜する所に之て而辟せざる莫し

故に好て而其の惡を知り惡て而其の美を知る者は天下鮮し

故に諺有り曰く人其の子の惡を知る莫く其の苗の碩を知る莫しと

此を之れ身を修むるは其の心を正すに在りと謂ふなり

齊家

所謂其の家を齊ふるは其の身を修むるに在りとは人は其の親愛する所を之て而辟す其の賤惡する所を之て而辟す其の畏敬する所を之て而辟す其の哀矜する所を之て而辟す

故に好て而其の惡を知り惡て而其の美を知る者は天下鮮し

故に諺有り曰く人其の子の惡を知る莫く其の苗の碩を知る莫しと

此を之れ家を齊ふるは其の身を修むるに在りと謂ふなり

治國

所謂國を治むるは其の家を齊ふるに先づにありとは其の家を教ふ可くして而後國人を教ふ可し

家を教ふる可からずして而能く人を教ふる者は之れ無し

故に君子は家を出でずして而國に成教有り

孝は君に事ふる所以なり

弟は長に事ふる所以なり

慈は衆を使ふ所以なり

康誥に曰く赤子を保んずるが如しと

心誠に之を求むれば中らずと雖も遠からず

未だ子を養ふを學て而後嫁する者有らざるなり

一家仁なれば一國仁に興り一家讓あれば一國讓に興り一人貪戾なれば一國作亂す

其の機如此の如し

此を之れ一言以て事を僨り一人以て國を定むと謂ふなり

堯舜天下を率ゐるに仁を以てす而して民之に從ふ

桀紂天下を率ゐるに暴を以てす而して民之に從ふ

其の令する所其の好む所に反すれば而民從はず

是の故に君子は諸を己に有して而後諸を人に求む

己に無して而後諸を人に非ず

諸を己に藏して而後恕諸を人に施す

諺に曰く其の人を樂しみ其の子を利すと

是の故に君子は先づ德を愼む

德有れば此に人有り人有れば此に土有り土有れば此に財有り財有れば此に用有り

德は本なり財は末なり

本を外にして而末を內にすれば爭を民に施すなり

是の故に財聚まれば則ち民散じ財散ずれば則ち民聚まる

是の故に言悖て而出づる者は亦悖て而入る

貨悖て而入る者は亦悖て而出づ

康誥に曰く惟れ命は常に于て善に于てせずと

善は寶と爲す

舅犯曰く亡人は以て寶と爲す無し仁親を以て寶と爲すと

楚書に曰く楚國は以て寶と爲す無し善人を以て寶と爲すと

秦誓に曰く一個の臣有り他技無く其の心休休焉として其れ容る有るが若し人の彦聖有るを其の心好んで之を啻に口に出すのみならず實に能く之を容る以て我が子孫黎民を保んずる尚ひ之れ利有らんかと

人の彦聖有るを己れ之を媢み人の能有るを違ひ之を俾て通ぜざらしむれば實に能く容れず以て我が子孫黎民を保んずる亦曰ひ殆ひからんかと

唯仁人のみ之を放流し之を進退し與に中國を同にせず

此を之れ人を愛し能く人を惡むと謂ふなり

賢を見て而舉ること能はず舉ること而先にすること能はざるは命なり

人の惡を見て而退くること能はず退くること而遠ざくること能はざるは過なり

好む所有れば必ず其の正を得ず憂ふる所有れば必ず其の正を得ず

人の其の苗の碩を見ざるは其の子の惡に於てなり

財を生ずるの大道有り

生ずる者衆く食ふ者寡く爲る者疾く用ふる者舒ければ則ち財恒に足る

仁者は以て其の身を發し不仁者は以て其の財を發す

上仁を好めば而下義を好まざる者有らざるなり

義を好めば而其の事終る有らざるなり

府庫の財は其れ君の有に非ざるなり

孟獻子曰く畜馬乘有れば則ち雞豚を察せず

伐冰之家は牛羊を畜はず

百乘之家は聚斂の臣を畜はず

與其有聚斂之臣寧有盜臣

此を之れ國は利を以て利と爲さず義を以て利と爲すと謂ふなり

孟獻子曰く畜馬乘有れば則ち雞豚を察せず

伐冰之家は牛羊を畜はず

百乘之家は聚斂の臣を畜はず

與其有聚斂之臣寧有盜臣

此を之れ國は利を以て利と爲さず義を以て利と爲すと謂ふなり

為なり一日已よ克て礼よ復べ天下仁よ帰ま仁と為ること己よ由て人よ由乎哉

己復禮天下歸仁焉爲仁由己而由人乎哉　顔子仁を行ふ所以を問奉ける此段最も要道にして重き場処なり礼とハ天道の理の正ことく節文をもつて過ることなく不及ことなく中ふこのむ常ふいへる礼義ものけじめ已とハ私の心なり人のこゝろハ利欲の私といふものにて皆中をうしなふことく仁とハ本心の徳のまつたきをいふ聖人御教ふ常ふ私の心よ克さうて天理の正さを守べし一日復とらふ然べ本心の仁を得なり一日なくして私の心なく一念心よ不仁なることなし時ハ天下の人ゝ仁よ帰き服さるなり仁を為ることハ己が心よ在て人よ由のとうなり

顔淵曰請問其目子曰非禮勿視非禮勿聽非禮勿言非禮勿動顔淵曰回雖不敏請事斯語矣　顔子已よ聖人の垂教をうけたてり天理と人欲の判然うふ今ハ其礼よ復の條目を問奉まつる御呑身の行ひハ外を制さる時ハ内を養ふ所以なり目よ視耳よ聴口の言ひ身の動此四ハ物よ応ふ文ゝさハ心をつゝしめよ故よ記語行なひ一切り礼法よ背て心を動さゝ加ふなう顔子ハ承て容易て深るものなうまゝハ決して倣令不敏なるも私なうとも請願処ハ永く斯教を身の事業とう奉まつらんとなり

○仲弓問仁子曰出門如見大賓使民如承大祭己所不欲勿施於人在邦無怨在家無怨仲弓曰雍雖不敏請事斯語矣　此段聖人の仁を説のみて異なることを見るべし仲弓よ亜ふ徳行の賢人なり

經典餘師　論語集註　卷十二　二十八　正誤業書館藏

子在て怨こと無一仲弓曰く雍不敏なりと雖ども請斯語を事とせん

司馬牛仁を問子曰まハく仁者ハ其言訒曰く其言訒斯之を仁と謂乎之を為と難一之を言こと訒とせざる得乎

司馬牛君子を問子曰まハく君子ハ憂不懼不曰く憂不懼不斯之を君子と謂乎子曰まハく内省て疚うしなし不夫何をか憂懼ん

さて仲弓への御答ハ心の敬を第一ことと右の聖人舜帝孝となりてのみ時も已が身を恭一く南面こ坐一のみにあり之を壁言喻一て貴重なる客賓こ相接の意を持て人の瞻視所を軽一くなすべきに下を治め民を使も大なる祭こハ鬼神の事こ接り奉る心を以てまれハ自然こ身ともとく恭一なることなし如此心廣く體も胖うして擯及一て凡そ人の心こ不欲事なくバ必ず人へ施及ることあり

○司馬牛問仁子曰仁者其言也訒

司馬牛への御答なれバ牛が為処を揆ざるや仁者ハ言を慎で妄こ口より出さんと欲せざる何ぞ仁者の言を求んと欲一て之を問ふや

子曰其言也訒斯謂之仁矣乎

仲弓まこ心こ斯を仁にとや侍らん

子曰為之難言之得無訒乎

ようて認ことなき者ハ言を認ことなき所以を悟得ざれバ人へ聖人の道を御答こ君子ハ心常こ泰うして憂懼ることなし

○司馬牛問君子子曰君子不憂不懼

司馬牛君子の道を問ふ吾意の倹こ任て妄こなることなし一君子ハ身の行ひと口の言こ及ざることとなく義理を守ることを以て自然こ

夫何憂何懼

司馬牛ハ心こ疑うて只この二ッを以て君子とやせん御答こ汝唯軽一く言を吐て此二ッの本付処を悟ざれバ君子ハ是ハ義こ不義こと正一て理の疚こざる

司馬牛憂て曰く人皆兄弟有我獨亡

子夏曰く商之を聞く死生命有り富貴天に在り

君子敬して失無く人與に恭くして禮有らば四海之内皆兄弟也君子何ぞ兄弟無きを患へん

子張明を問ふ子曰く浸潤之譖膚受之愬行はるゝを不明と謂ふ可已浸潤之譖膚受之愬不遠と謂可已

者を行ふ凡そ人行ひを務ざるより心を愧ざる持ある者ハ則ち心憂ざるなく務べきことを務ざれバ拙ふして心懼なり若し心より一点の疚なくバ憂懼なきこと非ずや斯を君子の人とふ

○司馬牛憂曰人皆有兄弟我獨亡

司馬牛の兄桓魋ハ暴悪至道なり依て此言葉あり兄弟あれども却て心を苦労するのみにて忌弟亡ふ異ならんと

子夏曰商聞之矣死生有命富貴在天

子夏之れを聞て曰く海ハ人之を何ともすることなふして生ぜざる前より定まり有ことおゐて人之を何ともすることなふして貧くとも天より其分限始より定ありて人の力を及バざる草木とらんぐる如く理そ茂ると伸ると屈ると分限あり此を天命とふ

君子敬而無失與人恭而有禮四海之内皆兄弟也君子何患乎無兄弟也

人常に悔とらるゝ敬の足ざるより起る是故に君子ハ常に敬の心を取失なふことなく心を持と恭敬ありて交るに礼を以ふる時ハ四海の内他人の忌弟のごとく隔をさる程なる有べし徳ある者ハ必ずも兄弟なくとも忌ふべし

○子張問明子曰浸潤之譖膚受之愬不行焉可謂明也已矣浸潤之譖膚受之愬不行焉可謂遠也已矣

子張の問ふ所ハ徳の明なることを人を譖ることを人を愬ることを明とらんべし一人を譖ることも驟なるハ事あるまじ浸潤とハ濕気ある側の紙の如くじとなく漸漬をらるゝ膚受とハ膚受とハ愛くるハ大事成就せんとして膚を割る時ハ聴者も善悪を詳らかにさゞるを急とらるゝ

子貢政を問ふ子曰く食を足し兵を足し民之を信ぜ
子貢曰く必ず已むを得ずして去バ斯三の者に於て何を先とせん曰
はく兵を去ん
子貢曰く必ず已むを得ずして去バ斯二の者に於て何を先とせん曰
はく食を去ん古へ自皆死有り民信なくバ立不

辣子成曰く君子質而已何ぞ文を以て為

子貢曰く惜乎夫子之君子を說駟も舌に及バず

○子貢問政子曰足食足兵民信之矣

子貢政道を問奉るに聖人の御答夫國の政ハ先民の虛業不足なきを第一とまるなり食足て扨又武威を以て強を正し其上へ文德教化して民我を親ミ信を抱て離叛ることなく兵ハ武備の總名なり

子貢曰必不得已而去於斯三者何先

子貢ハ此二ツ元より重しと雖も此三ツ條行ハるゝ程ハ遠を明らかにいふべし

曰去兵

子貢ハ此內一ツを除時ハいづれをか先に去ヤさんや御答ふそれハ先兵道武備を去べし如何となれハ食物を得ざれハ此內一ツをも守ハ兵武威を以て強を正しうて信の道を守ること堅くなるべし

子貢曰必不得已而去於斯二者何先曰去食自古皆有

死民無信不立

子貢やゝ御答ふ食を去るべし夫人ハ必ず死ざるなり然ハ食ハ民命の本なり一日も信の心を去てハ立べからず此內一ツを除時ハ先ず此の如し

○辣子成曰君子質而已矣何以文爲

辣子成ハ名なり其ハ氏それ君子の德ハ仁義忠信を以て質とし禮樂ハ文なり當時の華美を疾てなり

子貢曰惜乎夫子之說君子也駟不及舌

子貢評ハ子成の說の如く質のみ正直誠を社稷とむとて書を讀文ハ末に及ばず

文猶質也質猶文也虎豹之鞟猶
質ハ文の猶ー
虎豹之鞟ろ犬
羊之鞟ゥの猶

羊之鞟
君子貢もさ君子を問のふ禮文あろくく
君子小人よくわろなろう質のまてハわる
ごとー文も質も猶きやらひてとくバ豹の皮虎の皮
なごー重宝をなごとらふも毛の又常の獣ー異たろを
以てろう若毛もなき鞟の皮をうなりバ犬羊の皮も
賤分ゆれごろべーとそ朱子評ーのふ此語つまり過

○哀公問於有若曰年饑用不足如之
哀公有若ょ問
て曰く年饑て
用足不之と如何

何
魯の君哀公問て曰く年饑て國の入用不足
之を如何ちんやと題民へ國用を掛んとの義ん

有若對曰盍徹乎
有若對て曰く盍
ゃ徹セ盍平

仕方ょ成べー徹通の字の意を行なあとあって
を合ハセ通ーて田地を耕のろろて其の貢税の法
喻ごろうとあって斯ハのやんー

有若對て曰ク
有若對て曰く盍
徹セ通の字の意
百姓力

何其徹也
哀公又曰く今ハ十分の内二ツを納め
九分を民へろてさへ國用不足なろ如何を徹の法

曰二吾猶不足如之
曰く二ツ吾猶足
不之を如何ぞ其
徹セん

何
對て曰く百姓足
バ君誰と與ふ
足不人百姓足不
人バ君孰と與よう
足

孰與不足
十分一を上へ献納ーて
九分を民へろてさへ國用不足なろ

百姓不足君孰與足
民の父母なろ子困んで父母の心滿足なろの理るー君臣
父子ハ一なろ私の心なき時ハ吉凶憂喜ともに獨
上を戴ろの理るー今國を治ろるも民百姓十分
あらバ君孰と與楽ーろろんや
君の不足なる理るー若民百姓うバ必

○子張問崇德辨惑
子張の問なろ德とハ
心の理を得て胸中
積蓄ろろう如何ーて德の崇さふ進んやまた
心の惑とハ如何なろとふて辨へあろろやー

忠信を主とし義に徙り德を崇くする也

子曰主忠信徙義崇德也　聖人數の字の辭身の行ひを正し信ハ初めより終り迄一日一日の徒らなく義理の正しき道を徒行ハ德を崇くなり

愛之欲其生惡之欲其死既欲其生又欲其死是惑也

之を愛して其生を欲し之を惡で其死を欲し既に其生を欲し又其死を欲するは是惑也

誠の富を以て不亦祗以て異なり

誠不以富亦祗以異　此語ハ第十六篇の文の錯入なり依て爰に註をなす

齊の景公政を孔子に問

○齊景公問政於孔子

へ奉る

孔子對曰君君臣臣父父子子

孔子對て曰く君君たり臣臣たり父父たり子子たり

父の曰く善哉信ふ如君君たらず臣臣たらず父父たらず子子たらば粟有と雖ども吾得て食ん諸

齊の君景公政道の心持を聖人聖人數て曰く夫國家の義とハ君ハ君の道を明らかにし臣ハ臣の節を守り敬て職を務むべし父ハ父の慈愛を乱さず子ハ子たるの孝道を失ふべからざるなり此時景公龍愛の美人多く太子を立んと定まりなくて君臣父子の間相和らぎ是なくて聖人專ら善哉信ぞ奉る事も能ずして食物ありても吾安穩に食ふ事も能ずとなり然ば景公徒

予言以て獄を折む可き者は其由與

子路諾を宿る

訟えを聽て吾人の猶ほ必ず訟えざら使め乎

子張政を問ふ

曰はく之を居て倦む事を以てし之を行ふに忠を以てす

博く文を學び之を約するに礼を以てせば亦以て畔かざる可き夫

君子は人之美を成し人之惡を成さず小人は是に反す

季康子政を孔子に問ふ孔子對て曰はく政は正也子帥ゐて正しくせば

○子曰片言以て獄を折む可き者は其由與

子路は心忠信にして誓ひて曰はく誠に聖人の言半句を以て理非を斷ずる事は子路の人ぐら作ん折む可き者と云べし

子路諾無宿諾

此段子路の氣象おもひやるべし生の人となりてまことに諾は訓て物を請合ふ事を捨置ざるの心にて一宿の間に一夜をも置ことなく人に信ぜらるゝ事斯の如し

○子曰聽訟吾猶人也必也使無訟乎

此章已に大學に出づ本を務る時は其末自ら治るの理なり

○子張問政子曰居之無倦行之以忠

子張政を問ふ聖人御答へ其政道は我身と先へ〳〵行なふ事なれば人歸服ふこと始終退屈

博く文を學び之を約するに礼を以てせば亦以て畔かざる可き夫

君子は人之美を成し人之惡を成さず小人は是に反す

○子曰博學於文約之以禮亦可以弗畔矣夫

此章已に前に出づ

○子曰君子成人之美不成人之惡小人反是

君子と小人の相反なる事を說のよ義事の成就せん事を願ふ人の爲に惡き事なれば成ざる事を好まざるこの故に人の害なる事を好む小人はこの道と反なり

○季康子問政孔子孔子對曰政者正也子帥以正孰敢不正

季康子の問ふ所は人對して政道の字の意を說ず季氏の家本季桓子より政道正しくして上を犯し毎事心あらざる事を知て下を治むるの心あらざれば

孰ゥ敢て正ーさゞらんや

○季康子患盜問於孔子孔子對曰苟子之不欲雖賞之不竊

季康子盜を患ひ孔子に問ふ孔子對て曰まハく苟も子ゞ不欲ふ之こと賞ふと雖ども竊まさ不

季康子政ごとを孔子に問て曰く如何ハ何如

孔子對て曰まハく子政ごとを為ふ者なら苟も子の心正くして貧欲を懐ざんバたとへ恩賞を施ほどこすとも竊者あじと

○季康子問政於孔子曰如殺無道以就有道何

季康子政道の法を孔夫あつて聖人へ問奉ツて曰ふ如無道なる者を殺して以て道ある方に就從ハ何如あらんやと

孔子對曰子爲政ごとを爲ふ者多ふ御答上ふ者貪竊の風義を行ふやうニハ下ぐ見習ふ慣ふ

風小人之德草草上之風必偃

風なら下小人の德ハ草の如し風ふく草木を靡なびかす偃の理ありやや

○子張問士何如斯可謂之達矣

子張の問なら如何なる德をバ達士とハ謂ふべきやと

子張問ふ如何なる人を達人と謂ふやと

子曰何哉爾所謂達者

聖人對ふるの先ハ爾の心にハ何如

子張對曰在邦必聞在家必聞

子張對て曰く邦に在ても必ず聞へ家に在ても必ず聞へ

焉くんぞ殺を用ん子善を欲ふして民善なら君子之德ハ風なら小人之德ハ艸なり草之ふ風と上ふバ必らず偃ふす

政焉用殺子欲善而民善矣君子之德風小人之德草草上之風必偃

御答ふの子已ゐ政ごとを取の身分ふて何ぞ下と愛ぢて殺とらんやの法を用ん子ふり善とを好ふ欲ふ

自ふら善道よ趨くべし夫上ふる位まる者の下と過よとハ誠ふに順ふして躰ふたとへバ上君子の德ハ草木を

風なら下小人の德ハ草の如し風ふく草木を吹ふかすハ即ち吹ふかす靡なびかす偃の理ありやや

○子張問士何如斯可謂之達矣

子張の問なら如何なる德をバ達士とハ謂ふべきやと

達と子張對曰在邦必聞在家必聞

子張の問なら如何なる德をバ達士とハ謂ふべきやと

なる人を達人と

子張對て曰く邦に在ても必ず聞へ家に在ても必ず聞へ

家に在て必らずを聞ゆ
是聞也達に非ず
夫達ハ質直にして義を好む言を察して色を観慮つて以て人に下る邦に在て必ず達し家に在て必ず達を
夫聞ハ色仁を取て行ふ違之に居て疑ハ不邦に在て必らずを聞、家に在て必らずを聞ゆ

必聞 子張の曰く今所の達と申ハ、たゞ人へ出て邦に事ゆれバ其名邦に聞へ、退て家に在バ家に在て名の著る。

子曰。是聞也非達也 聖人の曰く、是名の聞とふ者なり。徳の通達したるにてハなし。とぞ真と偽と学者の分べき肝要之。

夫達也者質直而好義察言而観色慮以下人在邦必達在家必達 依て達の事を説て曰ハく、それ達とハ内に忠信を主とし生質の侭に正直、正道邪なく外ハ行ひの義理に適ふ事を求め行ふなり。言をよく察し顔色をも察し観て人情を取失ふなど己が分量を思慮して身を引下て人に譲るゆへに己が身を脩むる事を重として名の聞へと不聞とに關るの心なし。

夫聞也者色取仁而行違居之不疑在邦必聞在家必聞 又聞の道を説て曰ハく、聞人ハ今時顔色を正しく向を重じとる仁義を重きとふ如く表ハ本心の全徳ありて取行ハ似たり然ども行ふ所ハ仁を取とかんバ見る処聞とる所必ずしも宜きを失ハさ然ども只是元来名の為を事とする事ゆへ行ひの底意ハ理に違て偽なり自らも其道を善として其場に居て疑ふ事なく常に行ふ事をかくのごとし。依て名の聞へハありと云べし。

樊遅従ふて舞雩之下に遊ぶ曰く敢て徳を崇し慝を脩め惑ひを辨ぜんと問
善哉問
事を先にし得るを

○樊遅従遊於舞雩之下曰敢問崇徳脩慝辨惑 樊遅聖人の御従して舞雩の丘に遊覧して折しも此問あり徳の崇く進み心の底に匿ある不仁悪心を脩さそのうへ惑を分辨するとかう

子曰善哉問 聖人誉給ひて今樊遅が問処の志ざし誠に善哉と褒る

先事後得非

崇徳與攻其惡無攻人之惡非脩慝
與一朝之忿忘其身以及其親非惑
與　脩治也凡人道を守り信を失ハざると務て業を
事とするを天道の具加を思ふ然ハ上天
より又その報ありて恵を得ること多し然とも君子ハ其
為事を先へ務て都て其報を得んと心
ハ後ふ一つ甚だ人の事を攻る事なり是慝を脩のそくに非ずや
ま〻知の深からめ者ハ心寛ふして理を正すこと能ざる
ゆへ急なる小誤ちありたとへバ一朝一夕の念を
挿む夫をなくして吾身の大事を忘るゝ
父母祖宗の事ふ及ぶ是惑とするに非や

○樊遅問仁子曰愛人問知子曰知人
樊遅の問なる知仁とハ如何なる義を御答ふ人を
愛するハ仁心の施一及なり徳ある人を
知ハ是知を用ふるの務なり樊遅未達　樊遅その意ふ通ぜ
ざるを以ふ人を愛するハ平等にのぞむる処なきを知
る時ハ善悪を擇ふ似ざる所あるバ仁の心と相違ふ
やと合点ゆかざるしるし子曰舉直
錯諸枉能使枉者直　舉ハ取用ふる事なり錯ハ捨置ふ
枉ハ道あるふ直なるものを挙用ひて心ふ
狂まるものを捨置へ一そのまゝハ狂まるものも直ふ
なるふてつゐふ帰服ふへ一とかゝ直なる道ふ帰服ふる
を挙ふハ知ふ知ふ夫の御教なり樊遅退見子夏曰鄉也吾見
於夫子而問知子曰舉直錯諸枉能使
枉者直何謂也　樊遅御席をさら退ふのち未
ふあいてその義小通ぜざるゆへ子夏
ふ問奉まつるゐ右のごとく小御答あるゆへ何の謂にやと
ふ郷ハ仁と知との事を聖人へ

樊遅未達也
樊遅退見子夏曰鄉也吾見於夫子而問知子曰舉直錯諸枉能使枉者直何謂也子夏曰富哉言乎舜有天下選於衆舉皐陶不仁者遠湯有天下選於衆舉伊尹不仁者遠
直を挙て諸くの枉まるを錯能枉まる者を直うる使
樊遅退ぞひて子夏を見て曰く鄉吾夫子ふ見て知を問子曰まハく直を挙て諸くの枉まるを錯能枉まる者を直うる使
樊遅未達也
樊遅退見子夏曰鄉也吾見於夫子而問知子曰舉直錯諸枉能使枉者直何謂也子夏曰富哉言乎舜有天下選於衆舉皐陶不仁者遠湯有天下選於衆舉伊尹不仁者遠
樊遅仁を問子曰まハく人を愛を知を問子曰まハく人を知
樊遅未達也
樊遅退見子夏曰鄉也吾見於夫子而問知子曰舉直錯諸枉能使枉者直何謂也子夏曰富哉言乎舜有天下選於衆舉皐陶不仁者遠湯有天下選於衆舉伊尹不仁者遠
樊遅仁を問子曰まハく人を愛を知を問子曰まハく人を知

子夏曰富哉言乎（子夏これを聞いて聖人の誠に富る哉と言ひ御詞廣大なるを歎美し奉るなり）

舜有天下選（舜天下を有ち衆に選ばれ）

衆舉皐陶不仁者遠矣（人で皐陶を舉不仁者遠しと言ひ）

湯有天下選（湯天下を有ち衆に選ばれ）

於衆舉伊尹不仁者遠矣（仁者を舉不仁者遠しと言ひ）

子貢問友子曰忠告而善道之不可則止無自辱焉（子貢朋友の道を問奉るに御答友という字はたもくるるの意を發明して遂らるべからざるの如しと雖も忠告善道して不可なるを見ては則ち止自ら辱を受ること勿れと戒めたまふなり）

曾子曰君子以文會友以友輔仁（曾子の曰く君子ハ文を以て友を會し友を以て仁を輔く）

子路第十三

子路政事を問ふ

子曰まづ之に先ンじ之に勞を

子夏曰富哉言乎（子夏これを聞いて聖人の誠に富る哉と言ひ御詞廣大なるを歎美し奉るなり）

舜有天下選（舜天下を有ち衆に選ばれ）

衆舉皐陶不仁者遠矣（人で皐陶を舉不仁者遠しと言ひ）

湯有天下選（湯天下を有ち衆に選ばれ）

於衆舉伊尹不仁者遠矣（仁者を舉不仁者遠しと言ひ）

子貢問友子曰忠告而善道之不可則止無自辱焉（子貢朋友の道を問奉るに御答友という字はたもくるるの意を發明して遂らるべからざるの如しと雖も忠告善道して不可なるを見ては則ち止自ら辱を受ること勿れと戒めたまふなり）

曾子曰君子以文會友以友輔仁（曾子の曰く君子ハ文を以て友を會し友を以て仁を輔く）

子路第十三

子路政事を問ふ

子曰まづ之に先ンじ之に勞を

之を挙人曰はく再が知所を挙よ再が知不所人其舎諸

子路曰く衛の君子を待て政ごとを為ハ子将よ奚を先と将

仲弓季氏の宰と為政ごとを問子曰はく有司を先ニ小過を赦ニ賢才を挙

曰く焉ぞ賢才と知て而して

人を見て各〻其有司を用ハ然ハ各〻おを揮て我ハ労ちずして其功

成就をなん且斉一さ人とらハ無きものなれバ小さ過ハ

人を引挙べし賢才の人なり抔とハ藝能ある人なり

挙之曰挙爾所知爾所不知人其舎諸

仲弓季氏の宰と為政ごとを問子曰く有司を先ニ小過を赦ニ賢才を挙

得んや曰く然ごも賢抔の人のあるとを焉ぞ知ことを

挙ざる傍なしと聖人聞召て曰はく中〻

易となり再の常よる処の賢者を引挙ることを

聞て徳ある君子ハ自然と人より舎ざることなし山

べし賢者の多きも必竟ハ上の好所よりの集るものなり

ちずして小さ過を赦をとらハ下ゟ当りのおの〻全さ

ものなり賢才を挙ニバ倹人とらざる此三ヶ条誠ニ

天下よ興

○子路曰衛君待子而為政子将奚先

此時聖人楚より反て衛ニ在ることを時ニ衛の君出

公輒ハ前文ゟ述ごとく不孝不義の人なり聖人を得

て政務を取ことをとらバ是故ニ子路の心ニ聖人の

政道を為ごと如此の乱の跡奚ぞ先をとらんや

必ず名と正さん乎

子路曰く是有る哉子之迂なる奚ぞ其正さん

野ま人哉由君子其知不ハ所ニ於て蓋一闕如也

名正ら不ハ則ち言順ハ不言順ハ不ハ則ち事成不事成不ハ則ち礼楽興ら不ハ則ち楽興ら不ハ則ち刑罰中ら不ハ刑罰中ら不ハ則ち民手足を措所無し

故に君子之を名て必ず言可き也言可き之を行可き也君子其言小於て苟くもする所無し已

子曰必也正名乎

聖人御宇ふ夫國家を治ること人の服する者なく人今出公ハ父を父とせず而ハ正しき名なくして何の道を以て其國を治んこと哉ら子路の迂闊なるを笑ふ者なり奚ぞ其正さんや

子曰野哉由也

子路の人と為り鄙野にして君子の道を知ざるを謂ふ

君子於其所不知蓋闕如也

君子ハ聖人子路の義理を心を用ざるを野と謂ふ夫君子ハ道を明らかにし義理を行なふべきなり且まんぢ行ふ所に於て明かに知ざるもあらバ蓋ハ闕如て言を発をもめなくして可なり

名不正則言不順

名ハ知を用ひ一一何ぞ綴々として誠に益ること無ハ正しき名なくして言ハ順ハざるを以て徐々として推正をつくすことを用んやと

言不順則事不成事不成則

言ハ順ハざるを以て事ハ成就をべからず事成就をべからずして法度ハ興らず法度興らざる時ハ刑罰ハ当ら不り刑罰当ら不り則ち下ハ住居する民百姓ども手足を措所なしと仰せらる

禮樂不興禮樂不興則刑罰不中刑罰不中則民無所措手足

因て諫ることを出とせず身不義小事ハ人も順べうべき所ハ断如て軽々しくハ為事成就をべからず事成就をべからずして礼楽興らざる時ハ楽そもけだし事整のひ興ることなし

故君子名之必可言也言之必可行也君子於其言無所苟而已矣

右の訳ハ君子の動止ハ名目あるべし已上名目とハ國を取ること或ハ悪逆を正すことなうとも又ハ仇をもうつことなうとも暗君なう故に名目あるべし已上名目とハ人へ黙して物語ることなうとも不義なうして君子ハ名目と身の行うよ

所とつつ合て行となり君子の訟ハ苟なる事ハ亡き如くなり

○樊遲請學稼子曰吾不如老圃

樊遲稼と学ん人と請々る聖人御答て老農ハ吾ハ老農よ不如なりと稼ハ五穀を種ゑなりまさ圃を為ことを学人と請御答ふ是もまさ圃を作る老功の人よハ不如とのの給ひ一圃ハ菜蔬ものの類物を植るとなり

樊遲出子曰小人哉樊須也

樊遲暫あつて退出あり〻色ハ聖人樊遲を御評あつて小人の心哉と仰らるゝ一小人とハ細うなる士民の業うを誡ふ小人の心哉と仰らるゝ一小人とハ君子の大道をかゝあらざるとなり

上好禮則民莫敢不敬上好義則民莫敢不服上好信則民莫敢不用情夫

如是則四方之民襁負其子而至矣

焉用稼

耶王人已ら老農老圃ら如不とのの給ふ者ハ然るに樊遲疑をもさまふ切ら至ざる挙るの御教ら及ざるこの故ふりや老圃老農をこ尋るやうの事うてハ弥真實を失ふ事を恐うひて他人へかく示のふなり尤そ上ら立ら者ハ礼法を好ひ時ハ上を載くの下なんバ敬意を抱ざら者ハ尚ふ義うて万事の宜きふうなるふとを好のゞ下民心服ちざる者なりまさ法令を出ふく下を察し信實の不違を主ふのバ下民のこの情を用ひざる者なり如是に施一行なら時ハ四方の人民帰服して子を背に襁負なりて来至る何ぞ老農老圃の稼を学て後國を治る事を服んやとなり

○子曰誦詩三百授之以政不達使於

詩三百を誦一之ふ授るに政ことを以て達せ不四方に

使して專對能ハ不多しと雖も亦何を以て為ん

其身正しくせバ令せずして行ハれ其身正しからずバ雖ども令ニ從ハ不

魯衛之政ハ兄弟也

子產の公子判を謂く善室に居始有小しく苟合矣少く有小しく苟完く富て有れ曰く苟美なり

四方ニ不能專對雖多亦奚ヲ以爲

此段詩經の德と并に學問の法日用の事に行なふべきを論じのふ其詩ハ人情に通じ物の名を多く世の盛衰政事の得失を見るその德ハ温厚和平ニして言語に達し學て文字を暗弄の輩ハ假令詩三百篇尽く誦じたりとも政務を授けて事に達せず四方へ君の命を使てもその意達ぜず大節なる事に臨幾應變にて專對する事能ハざるハ誠に益なきといふ奚以爲と仰らるゝ時の備者とりわけ大切なる四書五經を講じ詩文を以て門人を取とおて政務に達ぜざるハ假令多くとも奚以爲とのこゝろなり

○子曰其身正不令而行其身不正雖令不從

凡そ上に立者ハ權柄といふの備ハをバ身正しくして已ず下へ對されバ人皆令せずして行ハれ其身正しからずバ假令なくとも國家の政道遂行ハれ若正しき時ハ權威を以て令を下すとも下民從ハざるべし愼べし

○子曰魯衛之政兄弟也

聖人の御生國魯ハ周公の後なり衛の國ハ康叔の後なり兩國とも先祖兄弟の國なり今天下ゆるく政道廢て淺間しく中ゐも魯衛兩國ハ政事の衰へて忌弟のごとく懶怠遊されしく相似る事

○子謂衛公子荊善居室始有曰苟合矣少有曰苟完矣富有曰苟美矣

公子荊ハ衛の大夫なり其人となり金銀奢侈の心なく常人通用のごとくその身なれバ始ようやく分なる事を嫌ざる公子荊の室を治るに器物やの物始て有ると曰ふハ苟ども間に合バよしとなり少しく整ひ完しと曰ふハ苟ども時他人なれバ奢侈をさへバよしとなり然るに公子荊の曰ふ

苟う完くそれバ其ゆたかなれバ善義を尽し一ナベさまふ却て公子荊ハ苟う美ことうて事ことへ一めと誠に富と仰らる

○子適衛冉有僕　聖人衛の國へ到らん日冉有御僕なり

子曰庶矣哉　聖人御車より衛の人民の多くあるを見渡しのひて曰ハく〳〵かく人民多ありて盛なる行届くる事なくバあるべからず然ども治め方の覚束なきの思ひあり

冉有曰既庶矣　冉有の曰く已に庶くの百姓人民

何加焉曰富之　ハ何ごとをか加へらるゝやとの問ひなり

曰既富矣又何　曰く既に富めり又何をか加へんと

加焉曰教之　曰く有ハ又曰くもとより富くるうへハまた何をか加へらるゝや御答道を

苟ク我ヲ用ユル者ハ有バ基月已ふして可ナラン三年にして成ス有ン

善人邦ヲ為ル百年亦以テ殘ヲ勝殺ヲ去可シ誠ニなる哉是言ヲ

教ふるハ人々皆善なる心ありて衣食住の事のみにて生てのミあるハ人々益事とらふるのなり君ありて道をもてびざれバ強りのハ弱きものを侵し男女の礼もなく禽獣のごとくなるべし依て教を施し備りとのふるのなり

○子曰苟有用我者　聖人衛の君霊公に聘せられて衛國の民も悦と用ひらるゝ事あらバ苟我を用ゆる事今一年なるべし

三年有成　聖人衛の君霊公に聘せられて衛國の民も悦と用ひらるゝ事あらバ苟我を用ゆる事今一年なるべし

○子曰善人為邦百年亦可以勝殘去殺矣誠哉是言也　是ハ古語なり言ハれたる言を好むの人ハ邦ことを為

如王者有ハ必ず世ま一て而して後ち仁ならん

苟に其身を正しくせバ於て何ら有ん其身を正しくする能ハ不んバ人を正しくするを如何

ま一年を經あひだ百年ぞうも續こそバ國風大に宜くなさ政道に至らべし然バ殘暴なる風俗ハうをさりて甚しきも殺刑も有やうさと誠ふも是言の如くべしと仰せらる

○子曰如有王者必世而後仁

大徳の天子かの舜の如き聖人あらバ必ず三十年ぞうにして天下殘なく仁政行とゞくべしとなり三十年を一世とらふ世仁になうとハ題なり

○子曰苟正其身矣於從政乎何有不能正其身如正人何

凡て同類を用ふくらふの理を悟得べし曲ある者に曲ハ曲を用ふ直なる中ハ曲る者を入るべからず夫政道の政の字ハ正の字のこゝろぞ苟に己が身を正しくして政道を正しくせんたゞちになり何の難きこともなしとなり若其身を正しくせんことの能ハざれバ如何ぞ人を正しくすることの

再有朝より退くなるべくんや

○冉有退朝子曰何晏也對曰有政子曰其事也如有政雖不吾以吾其與聞之

山時御門人冉有ハ季氏の臣なり一政道を己が臣と私らん計略せしゆへ聖人まづ或日冉有朝廷の勤退出なり聖人御尋ね何故ぞ晏くまで冉有答て政務のことあり聖人曰く其ハ季氏が家の務ぞうくんにして公事とらふぐうん必ず大夫と相謀とつふも吾もまた大夫なれバ與ふう同の理なりと假令吾用ふられずとも

○定公問一言而可以興邦有諸孔子對曰言不可以若是其幾也

定公同一言にて以し邦を興すべきを有ハ諸孔子對て曰まをく言ふべきにハ是の若く其幾を可ふうず

人之言曰君為難為臣不易當時人々の言ふも君と爲て至て難となり一人の爲にて難となり一言の短を以て其幾

如君爲之難知ば一言の長を以て邦を興すを幾せざらん乎

曰く一言以て邦を喪すを有り諸孔子對て曰ま

ハく言以て是の基なりと悟知るべき實に國家を興すべきの幾あらんと

君難爲爲臣不易

國家の人民の愛と尊こびと頂ふことなり臣となる事も

まつこと易からざる心の至て厚き誠なくバ忠臣となりうる

如知爲君之難也不幾乎一言而興邦

如君と爲てハ其行ひ容易なるべからざるを敬て政道を取

乎

如君と爲てハ其行ひ容易なるべからざるを敬て政道を取

べきの理有ことを悟知るべきの幾あらんと

對曰言不可以若是其幾也人之言曰

予無樂乎爲君唯其言而莫予違也

定公或日聖人への御話を引興を心持よく一言一句

の妙語を承のみ〳〵有諸いぞとなり聖人對の

ふハ如是よく一言の短を以て其幾

ある可き〳〵不旦益なき事ゟるゝむ

人之言曰爲

當時人々の言ふも君と爲て

至て難となり一人の爲にて

難となり臣と

定公又問て曰く一言ふて邦を喪の理あり諸

聖人の御咎人の言ふことよハ予幾くの人の上にて

君といふことを樂とも思ふ〇ども唯言ひぐちの權威

ぞ樂とおりなく行なれ誰りて違背もすることなん

君ゝる人の詞のよう

不亦善乎如不善而莫之違也不幾乎一言而喪邦乎

右の語を判斷

義なりバ人のおそれ服もする處善とも思べし若

や權威ふまうせて不善とする人々地それて違背

せざるやうなりて誠よ邦を喪の前表れ幾ういう

事なし之一違の一說言ふく邦を喪をふあしごや

○葉公問政子曰近者說遠者來

葉の國の公なる人政務の本意を問ふ聖人の御答

政道の本ハ民の情を得よりあり仁政を民よ施し悦

子夏莒父の宰と為て政を問。子曰まへく速かなるを欲すること無れ。小利を見ること無れ。速かならんと欲すれば則ち達せ不。小利を見れば則ち大事成不

葉公孔子に語て曰く吾黨に躬を直くする者有。其父羊を攘而して子之を證す

孔子曰まへく吾黨の直き者は是に異なり。父は子の為に隠し子は父の為に隠す。直きこと其中に在

あまりて時は近きところの者よろこびて其風俗を傳へきけば遠りの心をとりさむけて来服すと

○子夏為莒父宰問政子曰無欲速無見小利欲速則不達見小利則大事不成

子夏莒父といへる邑の宰となりて政務のことを問ひ奉まつる御答りの速く成就することを欲べからず。必ず次第をあやまりしては達ることならじ。小さき利ぶんを見ると物りかべうらず極めて大事をとりうしなひて成就ならび

○葉公語孔子曰吾黨有直躬者其父攘羊而子證之

葉公のりの語に吾黨の中に正直なる躬りかかる者あり。其父他家の羊を攘とりたるに其子某あきらかに其事を告知らせしとぞ

孔子曰吾黨之直者異於是父為子隠子為父隠直在其中矣

聊モ人の御對に吾黨の中にてかゝるところの正直とはその旨異なり。吾黨の中にていへる正直はたとへば父は子を慈愛がゆへに隠しまもり子は父を大切に思ふより隠しとらふは直なるぬに似たれども其直なる訳は自然と其中にこもりあるとも

樊遲仁を問。子曰まへく居處恭しく事を執て敬み人に與て忠なれ。夷狄に之と雖も棄可らず也

子貢問て曰く何如なれば斯に之を士と謂可き。子曰まへく

○樊遲問仁子曰居處恭執事敬與人忠雖之夷狄不可棄也

樊遲仁の旨を問ひ奉まつる御答に常に身を居の恭しく事を主どる時は敬みをつとめて人に對しては必ず忠なるべし。その上人に對しては物事を安かならざる時も恭しくすべし。たとへ夷狄の國までも行ても此三つの戒を固く守て棄ざるべし

誠まことの心をもちて廣めべく則ち中庸ならぬ篤恭にして天下平也との理

○子貢問曰何如斯可謂之士矣子曰

行已有恥使於四方不辱君命可謂士矣

子貢の問なり恥ずべきを恥ずるは烈士と雖も御卷にそれ義を見て已が身の行なふところ非義なるを恥ずるなり君の爲に四方へ使すとも不辱わざなるを士といふべし使者とは事を主君の命令を威光とうけそして能く言ひのべ

曰敢問其次曰宗族稱孝焉鄉黨稱弟焉

その次なる人柄をいふ御卷と敢ての問なり御卷に大てい宗族の内にて孝行なる人と稱よくは其鄉黨にて弟と稱らるゝ程なるは先人の餘行の未だ

曰敢問其次曰言必信行必果硜硜然小人哉抑亦可以爲次矣

御卷その次といふは先ず口は言ひところ才知ハ右と行なふところをも果て硜硜然として信あり

曰今之從政者何如子貢曰噫斗筲之人何足算也

子貢又曰く今の政務に

とのふ今の魯の三家のごく義を辱うたぐひ何ぞ算ふるに足らん聖人ともつゞきのごく思ひ噫斗ハ十升いるゝ斗二升の

曰不得中行而與之必也狂狷乎狂者進取狷者有所不爲也

聖人のうち何ぞ心の

子曰不得中行而與之必也狂狷乎

聖人のうち何ぞ心の

狂者進取狷者有所不爲也

周くもとめ中庸の人を得てゆく導びきそこなふ然も今その人なきをれバ必也と思へバ狂狷の人を得さ

狂者

狷者

とハ志ざし高く心を取りもつと進こゝろざしなり

狷者

ハ知てハ万事及ざる所あれども理を守ること餘あるこゝろの

人ハ撓まずくじけずして志ざし道に進むこゝろ

人ハ撓まずくじけずして志ざし道に進むこゝろ

篤実謹厚の人ハこゝろ穢ざるこゝろ能つゝ

曰く今之政とれ従ふ者何如子曰まゝく言必ずしも信あり行ひ必ずしも果を硜硜然たる小人哉抑亦以て次と為すに足らん

曰く敢て其次と問曰まゝく宗族孝と稱い鄉黨弟と稱ふ

曰く敢て其次と問曰まゝく言必ず信あり行ひ必ず果を硜硜然たる小人哉抑亦以て次と為すに足らん

曰く今之政とれ従ふ者何如子曰まゝく噫斗筲之人何ぞ算るに足らん

中行を得て之與セ不バ必ず狂猖乎狂者ハ進んで取猖者ハ為不所有

○子曰南人有言曰人而無恒不可以作巫醫善夫 南方の人常に口癖の如く言ふ語ありて一人として恒心なくば巫醫と作りて人の為に事を祈りたとへば巫祝は神よりの事を祈りて人の為に事を祈るのなり醫者は人の命を守るものなり役も作べくして行ひをつゝめざれば巫祝醫家のやうに常に人に頼まるゝ聖人の言と善矣とをあやぶむ

不恒其德或承之羞子曰不占而已矣 人恒の卦の辭なり此心ありて恒ぐ大なる德をたもち行ふべくして自然と身の上のあるべきまゝと聖人の理を知りて身をそこなふべきまゝと占を玩あそびて交の辭を引て曰まのく若恒なきの羞を承ることを悟るには占を取るまでもなしとなり而已矣

君子和而不同小人同而不和 君子の德といふは親しくて和ざてかさよるべき同心徒黨なくして和するといふもそれぞうらやましき小人の不德なることよ

○子貢問曰鄉人皆好之何如子曰未可也鄉人皆惡之何如子曰未可也不如鄉人之善者好之其不善者惡之 子貢の問なり凡そ鄉中皆に悪まるゝは如何となり御教もとめ願くは未可也なるまゝ問ふ鄉中皆に悪まるゝ程それも十分ならざれば何ぞ御教をもとめ願くは善悪さだかなるべし鄉人の善者は好とどうべられ不善者には悪まるゝといふ程なれば中庸なる人今同ところのことばかうなるには不如と又皆に悪まるゝとらふも論を免ずとなり尤て皆に好まるゝとらふも清士のなす故なるべし

君子和而不同小人同而不和 君子は和して同せず小人は同して和せず

子貢問曰鄉人皆好之何如子曰未可也鄉人皆惡之何如子曰未可也不如鄉人之善者好之而惡之 子貢問て曰く鄉人皆之を好ば何如子曰まのく未可なり鄉人皆之を悪まば何如子曰まのく未可なり未鄉人之善者は之を好み其善不者は之を悪むの如不

君子ハ事へ易くして説バし難し之を説バしむに道を以てせざれバ説こバず其人を使ふに及んでハ之を器のまゝにす小人ハ事へ難くして説バし易し之を説バしむに道を以てせずと雖ども説ぶ其人を使ふに及んでハ備ハらんことを求む

君子ハ泰かにして驕らず小人ハ驕りて泰かならず

○子曰君子易事而難説也説之不以道不説也及其使人也器之小人難事而易説也説之雖不以道説也及其使人也求備焉

君子小人の交接を説のふ己が身正しくあらバ君子にハ事やすしろくと易なりきてれどもよろこバしむる事ハ難と何となれバ道にこのまふ事なりるバ君子の心にあハざ又小人ハ事交りることのうし難とん心のそろハざる故なり然ども心をよろこバしむることハ易きなり如何となれバ其心を以て道ともぞもくるしからんとする也君子の人を使ハ其器量にまさがひて用ゆ因て人くもそれぞして用らる小人をし己が意にろなふとときハそれ一人に何事も備さんと求なり

○子曰君子泰而不驕小人驕而不泰

毎く君子小人をあらべ説りふ君子と小人とハ其身をもつもちハらなりるの心ハ君子るる人ハ常にこゝろを道によするのゆへ容貌心も泰然として驕矜なるところなりまた小人ハ常にこゝろを利欲によするがゆへにおりひよろにして泰然なる事なしとぞ

剛毅木訥仁に近し

子路問て曰く何いかなるをか斯れ之を士と謂べき子曰く切切偲偲怡怡如たり士と謂べし朋友にハ切切偲偲兄弟にハ怡怡

○子曰剛毅木訥近仁

剛毅とらふハ邪欲にまよハぬをいふ屈せぬなり木とハ今世のとハさにいふてちきれ木石のやうなりとらへる訥とハ言のすくなきなりこの四つのものハ邪の心なく直なる所ぞ仁に近し

○子路問曰何如斯可謂之士矣子曰切切偲偲怡怡如也可謂士矣朋友切切偲偲兄弟怡怡

子路の問なり何如なる行を士というべきや御答朋友の

善人民を教ゆる
こと七年亦以て
戎に即可し

教へざる不民と以て
戦ふに是之
を棄と謂

○子曰善人教民七年。亦可以即戎矣

善民をめぐみ教ふる人ハ九年民を治ること七年ばかり
してその功をそうして賞罰あきらかにして民忠信
を守りて武藝をならひ農業をはげまし民のこころ
つよくかしこくなりハ戦場の戎に即て用ふべし

○子曰以不教民戦是謂棄之

今まで民に孝弟の道をも学び問しらず暇く且税歛
おもきそのうへの筒条あつて自然に忠を懐くのこころを
もなく教ざる民を用て戦ハ果して
敗をとるとふりの不仁をなすぞや

論語古訓外傳　憲問第十四

憲恥を問子曰
邦に道有ふ
穀一邦に道無ふ
穀とるハ恥也

克伐怨欲行ふハ
を不以て仁と為
可

○憲問恥子曰邦有道穀邦無道穀恥

御厩人字ハ原思名を憲と
いふ人の問なり御厩に
在りて世に沿ふ邦に道ある時ハ
ハ極て利欲なる時ふもそのこころ
これを恥とも
身方ハ
正しうごくことを
免るをも深く味へ

○克伐怨欲不行焉可以為仁矣

憲ハ自身常に行ふところを以て仁の道を
なう克とらふハ人に勝て上ようんとを
人にうつろう怨とハ心にうらむ
欲とハむさぼる心なうこの四つを行ハざる時ハ仁なりとやと

子曰可以爲難矣仁則吾不知也

御器かその四つの義ともに以て行ひがたしとは孔子も知ぬ貴むべきことなり然ども仁の道理とは孔子も吾知ぬとなり　聖人仁をゆるし憲ふかくびの〳〵と同奉ずつゝしんで程先生のごとく慎うる

○子曰士而懷居不足以爲士矣

君子とは家君ようの衣服酒色金銀等の身の利欲安楽をいふこれを心にうけて懐とらふは操ある士とは為べからず

言孫

世よく治まると邦も道ありて正きことを言ふとも行ふとも危く持べし　危とは清くして言を出すまゝに身の行なふところも必ず操節たゞしくごうごうを以て行ひがたし義を守るべし言は必ず人ごゝろにのぞんで言ふ事ゆゑ毎益なる事ふかは身の撓なり

○子曰邦有道危言危行邦無道危行

○子曰有德者必有言有言者不必有

德ある者は必らず言ふ有言有者は必らずしも德有不仁者

心必らず勇有勇者は必ずしも仁有不

南宮适孔子に問て曰く羿は射を善くし奡は舟を盪倶に其死然を得不禹稷躬ら稼て天下を有夫子答へ不南宮适出子曰ま〳〵君子なる哉若のごとき

○子曰有德者必有言有言者不必有

德ある仁者必有勇勇者不必有仁

胸中に德をうるはしくそなへ言に深き意をふくむ今日りのかど詞ぐ輩は必ず身を辱持のなり仁者は民のうへの為に命をいとはずして力を場とこれを厭はず君父の為には必ず患をも勇とそろ事ふかくして勇とそろは必ず患のびてなり守ると不能なり　これを勇者は仁のごとし

○南宮适問於孔子曰羿善射奡盪舟俱不得其死然禹稷躬稼而有天下夫子不答南宮适出子曰君子哉若人尚德哉若人

人徳を尚とお哉
若のごとき人

人なり　至れとらる人ハ陸地に船をめぐらし盛男かの人なり　二人ともに然うべき死去を得ざるまでも古への禹王ハ天下の洪水を治め手足にまめをなして安座をもなさゞる又同じ代に后稷ハ五穀を種ることを訓ずうて民のために身をくるしめをうみ始めて后稷ハ甚子孫武王にいうて天下をたもつまで禹王ハ舜帝のゆづりうけ天下をうけ給ふの時の力をつくし世に功徳あり御方ハ皆苦労といふひとつの仁心ならんや依て聖人登りハざる南容ハ禹王后稷を聖人に比して誠に世に

君子よーて不仁なる者有んや
未ざ小人よーて仁なる者ハ有未

あとこゝろ誠よ若人ーそ君子の人ーもいうべきなりと称う

○子曰君子而不仁者有矣夫未有小人而仁者也

君子元より徳を尚むも然らざる仁ハ天理の純一なるものゝ毫の私とらふ欲もまじりてハ仁とハいふのなりがたし是を不仁なり者有とハいふ小人ハ始より本心の徳

之を愛ーて能勞ること勿らんや
忠よーて能誨ること勿らんや

之を愛して能労ること勿らんや
忠よーて能誨ること勿らんや

○子曰愛之能勿勞乎忠焉能勿誨乎

子を愛するにハ学問を務めざらしむ君に忠なるにハ善をとなうべし愛をとなうハ苦労をさせざるやうにそゝのかすの忠言を奉つるべしとなり

命を為る裨諶之を草創し
世叔之と討論し
行人子羽之を脩飾し
東里の子産之と潤色を

命を為る裨諶草創之世叔討論
行人子羽脩飾之東里子産潤色

○子曰為命裨諶草創之行人子羽脩飾之東里子産潤色之

鄭の國より他所へ使者を出すの時俗いざされ毎もその四賢人の大夫を経て其文備りくゆへその理精密なるとなり　上ようの命もとより文なりうハ始て草創をなんハ線諶とらふ人のやくなりうその義理を討ろうへ論ずるハ世叔のやくなりうその上文をそのひらく修ひ飾るハ

子羽の如くなり右四人のひとゞる上をとりて文華の光を施し十分に潤色きを備るハ子産の如く之行人ハ使館なり東里ハ子産の城下なり

或ひと子産を問ふ子曰まハく恵人也

○或問子産子曰恵人也

或人子産のひとゝなりを問御答に子産のひとゝなりハ人を恵といふものなり恵とハ人を愛まして厚くいへども仁を寛大に施し用ることを能ず孟子に委細なかるに八略しぬ今の世まで人君まてし学問をものとも遊徒の人と思ふなる品を何ぞ僻に孝心なるものあれば一所人をつりと褒美しうひあるひハ気ありて文学を好ミ習ものハ何の徳行もなきものを引あげてうやまつりの時のみせとて下なるものハ珍しきことにおめ奉まつるこれを儒家者流の道といふ國家の政務に於て必ず大功徳なきものなりとえようあしきことにて八あまんずる君主となり万民に恩沢あまねくしらふものふあらんものの中華にて孝廉賢良等の名目に隠上のふ倒とをりらざるべし識なり分て天朝ふ中華の法の用ましき事どもあり必ずあしきに八あらんか否きれるものを孟子に子莫の中と説きをる考べし

子西を問曰まハく彼哉彼哉

問子西曰彼哉彼哉

子西ハ楚國の公子名ハ申といふ人なり御答ふ彼を向といふや両度仏らきしハその人をとりのハざるなり賢才のあるて政務をも改めましなれども善人を用ひ給ことなく諌をいらふとれも欠ることありて遂に禍を引出せり

管仲を問曰まハくこの人ひと伯氏の駢邑三百を奪ふ疏食を飯し歯を没て怨言無

問管仲曰人也奪伯氏駢邑三百飯疏食没歯無怨言

管仲ハ齊の桓公を遂に覇者と仰せらつ人なり諸葛孔明も羨むふ人なり史記又通俗の書ふくハしきゆへ略しぬ管仲ハ德ありとをへて御答にこの人也政務をとりて同じ大夫伯氏の領分駢邑をいふ処を没収し伯氏にハ一生てんさうゝいさゝしに歯没するまでも怨る言なくうしとく己が罪をと知りて管仲を

不仁なりとせん三百八民家三百戸のところ華ゝしくて中數を下さゝるなり三百八郡の小さき城下なるべし

○子曰貧而無怨難富而無驕易

人の心一ゝに身まづしくて怨の心なきものハなし身ハ富ゝまめ驕傲をなさゞるものハなし貧ハ困窮する時ハ神のひ求て節操をかゝくまじきとハ致ゝく富て礼を好ハ易しと身ぶん富て不自由ならぬ

○子曰孟公綽爲趙魏老則優不可以爲滕薛大夫

孟公綽ハ魯の賢人ゝ貧窮ゝ閑靜ゝを論じ公綽の人ゝを知ゆく國の稱揚ともなるべし何ぞ小さき藤薛ゝ間優と趙魏の国の大老とハ求の發する処なるべし

○子路問成人之知公綽之不欲卞莊子之勇冉求之藝文之以禮樂亦可以爲成人矣

成人ハその德ふそくなく子路の問ゝなるべし公綽が私欲の心なきと卞莊子の勇と武仲が知と公綽が藝ゝ達ゝするを成人とらるゝや御尊下莊子之勇冉求之藝文之以禮樂亦可以爲成人矣

勇と武仲が知と公綽が藝ゝ達ゝすると凡そあの四つをこのハを弱てその上禮樂の文華を施さバ成人とらるべきなり

曰今之成人者何必然賢利思義見危授命久要不忘平生之言亦可以爲成人矣

又說で曰ハく今の世ハ何ぞよ然あらんや大てゝ說線金銀何どによくゞ身の利欲なるてゝ逢ては必ず義ゝ不義ぞとのんべまさゝ君のゝに就てハ命を危さ小授年久く約束要ゝとハ信を以て平生の言を忘ず逢

曰ハく今之成人者ハ何ぞ必ず然らん利を見て義を思ひ危さを見て命を授く久要平生之言を忘不亦以て成人と爲可ゝ

下壯子之勇冉求之藝の若き之を文るに礼樂を以てセバ亦以て成人と爲可ゝ

子路成人を問子曰ハく臧武仲之知公綽之不欲

子公叔文子を公明賈に問て曰まく信なるか乎夫子ハ言不笑ハ不取不乎公明賈對て曰く以て告る者過まてり夫子時にして然して後に言人其言を厭ハ不楽しんで然して後に笑人其笑を厭ハ不義にして然して後に取人其取を厭ハ不子曰まく其然り豈其然

かくの如くなりしバ成人の次となるべし

○子問公叔文子於公明賈曰信乎夫子不言不笑不取乎

衛の大夫公叔文子ハ名のきこへあるしれバ聖人ある日公明賈に問て曰ハく公叔夫子にハ言ず笑ず人より物を取ざるのよしいふ信にてあるや如何と

公明賈對曰以告者過也夫子時然後言人不厭其言樂然後笑人不厭其笑義然後取人不厭其取子曰其然豈其然乎

公明賈對奉るにハそれハ告たる者の過なり夫子にハ常ぐハ默然として肝要なる時ハいふべきことを言その故に人々敬ひて厭となし又心に樂むことありて然後に

らん乎

臧武仲防を以て後を魯に為んことを求む君を要せ不と曰と雖ども吾ハ信ぜ不

笑をふくむその故に人々その笑に厭ど又心に義ある不義ならと正して然後に取べきものを取その故に人々その行ふところに心厭なしかくのごとくなれバ聖人聞めして誠にその然るべし宜なり然れども是を尋常の人の行ふところにあらば豈に其然なるにハ心易うらずとなり聖人々を忽ちに是非を論じ給ハざ然ども訳もなき徒黨をなしたまふとなし

○子曰臧武仲以防求為後於魯雖曰不要君吾不信也

聖人のたまふ武仲身に罪を得て本領を奔出邾の國より又防の城下にいたり人を以て魯の君へ何とぞ家嗣を立人をと請願そのちれ身を避とのよし本心にハ君ゆるさずんバ防の邑に據て叛んとの意あり吾後嗣を己が身より請ことハ君を要ゆるになりたとへ君に要るにハあらずといふとも吾ハうく不信とぞのたまふぞかし智を好とも道を

晉の文公ハ譎ハりそ正ーうう不齊の桓公ハ正ーへ譎りー不

子路曰く桓公公子糾を殺すニ忽ち死す管仲死不曰く未ゞ仁なり未乎

桓公諸侯と九合ー兵車を以てセ不管仲之力其仁よ如んや其仁よ如んや

孚ざれバその撃や賊ると八宜なる。ううる

○子曰晉文公譎而不正齊桓公正而不譎

晉の文公ハ名を重耳とる齊の桓公ハ名ゝ小白ニて諸侯よ守ゝ

御方なう上ニ天子をうぐ天下を正ーのふ然よ桓公ハ仁義を名ニ假て知謀を用とゞも事文公名を天子ニかり奉ゝうて實ハ天子も其權威をくゝうとものふまの故よ譎て正ーうめとへのよ之事ハくゝーく左傳 是通俗の書に出さう

○子路曰桓公殺公子糾召忽死之管仲不死曰未仁乎

齊の襄公悪ざやく宜道うて公孫無知とりの話をなゝて遂よ弑虐ゞれにたをけらるて莒の國へうちのくゞ同く公子糾とヤハその臣管仲と召忽と二人從うひて魯へ奔るそのち桓公逐よなるひ勝て齊の國へうち帰る召忽ハ討死ー管仲ハさゝりれうのち桓公やゝ糾を殺をその時ふまゝぶそのうち管仲の智謀を以て桓公遂に覇者となりうひ政道あさーくうになり人ゝ徳よゐづくゝゝ

公九合諸侯不以兵車管仲之力也如其仁如其仁

管仲のカなう子路の問ハ管仲 詩死もべき臣の道を守ゞ誠よ不仁ならゞーやゝ

子曰桓

べきことにあゝびず智あうとてかゐうれ行うひをおうーて潜く正道よのなうふびうゞきうゞ管仲の心ハ

經ーく死てハ功もなく名もくらて悲ーの空ー果ゝを口惜くやひ且天下の万民を安穏なうゞきあへとおなれりのハ映ーて見うゝふ

やうて細數をうつゞやうなう俄て始ハ身をのべめて桓公の軍師となうて終よ九ゝびまで天下 諸侯伯と

會合をなし　竢道を正し　天子を守護し奉つて遂に桓公を霸者と仰しむる如く　管仲一人のかゝりし聖人御呑の意ハ　仁を以て余人よりたく〳〵べバ管仲の仁に如ものなし

子貢曰く管仲ハ仁者に非ず與桓公子糾を殺せし死もせず能ハ不又之を相く

○子貢曰管仲非仁者與桓公殺公子糾不能死又相之

子貢の問も右に同じく管仲のふるまひ不仁なるうんと咎めさせ称義をなさゞる如くなり

管仲桓公と相て諸侯よ霸とし　さび天下を匡し民今よ到て其賜を受其賜微管仲吾其被

○子曰管仲相桓公霸諸侯一匡天下民到于今受其賜

仁者とハ仰せられざる事なし

微管仲吾其被髪左衽矣

聖人元より義よ死せざるよしと心得て桓公天下を匡し下ハ万民を安穏なら令むる上ハ天子を守護し奉つて於ハあらひハ讃て正しうむる又他の覇者となりし於ハ管仲に如ものなし

髪を受管仲微人バ吾其髪を被もり衽を左よせん

管仲ハ天下を匡し夷狄を畏服せしめ天下の風俗を正しう今の世までも管仲の賜を受るものなり

匹夫匹婦之為諒也自経於溝瀆而莫之知也

管仲微ときハ吾くも今ハ夷狄ふうに左まへなりんのなり

豈若匹夫匹婦之諒を為溝瀆よ自経して之を知と莫き若くなり

管仲ハ大功あるの如く大功をとらる人よ對して空く小義にそろるの事ハたとバ匹夫匹婦ゞ縊諒をとりて溝瀆よ自経して溝瀆へたをれそこ人も莫き知よ夫婦の義理をとげしるどもかぎりなくなりんやと

公叔文子之臣大夫僕與文子同升諸公ノ升ル

子之ヲ聞テ曰マハク以テ文ト為可シ

子衛ノ靈公之無道ヲ言フ康子曰ク夫是ノ如クニシテ奚ソ喪ビ不ル

孔子曰マハク仲叔圉ハ賓客ヲ治メ祝鮀ハ宗廟ヲ治メ王孫賈ハ軍旅ヲ

作ラ𠮟ル子路子貢ノ論ハ七ひよ管仲ヲさゞゝん誠ヨ聖人ノ教ノ正ニさ妙ヲさゝなり又管仲ノ天子ヲらゝぶ天下ヲ匡ノ大功ヲ徒ヨ滅ホさものびのハざる聖人ノやゝめしーとちさ仁者なりとゆゝゝのらんざゝるハれもまさゝ如くなりたとへいうゆゝの大功ヲなんとさ公子糾ノ乱ニ死ぢ

ーてハ人もあゝゞさの時天下ノ諸侯ヨ周室ノ天子ヲたつともむうのなりもうるに管仲ガ力ヲかりて直ニ天子ヲいざ紀天下ヲ正ニのふまをハざれ天朝ノ大道なりまうれバ公子糾ノ乱ニ死ぢ聖人ノ捨ゝんざるやゝめーハ

の乱も小義にあらざる独夫の論と八大ニまちがひなりとなうと孟子の

○公叔文子之臣大夫僕與文子同升諸公

衛ノ公叔文子ハ前ゝいう賢徳ある大夫なりある者なりーの昇ーハ自躰の御内ヨ名ハ僕とよべる者ヲさぐヨて徳自躰ノ公叔文子ハ行なひ難ゝなりや

子聞之曰可以為文矣

聖人これヲ聞めーハ誠ニ公叔子を人なりとゝゝて文の字ヲ以て

○子言衛靈公之無道也康子曰夫如是奚而不喪

聖人御物語ヨ衛の靈公の無道なるヲ仰セあるーニ靈公の事ハ二の巻ニくわしくいへる如くなるニ康子かさうま在て曰く無道ならと是の如くなるに奚ゆへ身ヲ喪ハざるやと

孔子曰仲叔圉治賓客祝鮀治宗廟王孫賈治軍旅夫如是奚其喪

治む夫是の如く奚ぞ其喪ざん

其言を怍不則ち之を為すを難

陳成子簡公を弑を孔子沐浴して朝に哀公に告て曰まはく陳恒

其君を弑を請之を討ん

聖人仰せおはく霊公の行なひかくのごとくなれども喪ざる所以ハ賢徳の臣下三人ありゆへなり仲叔圉ハ他國乃そを合賓客のとき祝鮀ハ先祖宗廟の祭并に外交の事ハそを司どるなり王孫賈ハ軍兵の旅を司どるかくの如くなる故ゟ咎なるの理なし哀公ハ賢人を引あげ用ゐた如ハなり

○子曰其言之不怍則爲之也難

大口に仁義を言といふとも依て言と怍ることなくバ聖人これを聞めして誠よ人道第一大切のことなるを

○陳成子弑簡公孔子沐浴而朝告於哀公曰陳恒弑其君請討之

齊の大夫陳成子その主君簡公を弑しまつるを聖人これを聞めして身を清め朝廷へ出仕あり哀公に告ゐて曰はく陳恒今已が君を弑しまつる

願ハくハ詩とらんと請のふ

公曰告夫三子孔子曰以吾從大夫之後不敢不告也君曰告夫三子者

哀公孟孫叔孫ゟ告て然るべしとなり聖人のの給ふよハ吾國の三家の大夫等子君に告べきなり君よりの命ハ吾大夫の末席にてその後ゟあまど元より君よりの命ハ三家へ仰ゃらざるべきことなれども誠ゟいふをもべきハ哀公再び夫三子れ告ざるのことかの三孫ハ不忠の臣にして人ゝらの道をまもらざる館ハまた哀公自敖に命令をることハ

以吾從大夫之後不敢不告也

聖人遂よ三子ゟ之て陳恒を討とらべしと告ふれども三家のものゝ不可ざるれバ聖人も右三家のものゝ已に君を弑しまつるの志ざしをなしひて數息をなしひて役義なるを以て

公の曰く夫三子に告よ孔子曰まはく吾大夫之後よ従ふを以て敢て告不バのら不君の曰く夫三子者ゟ告よ

三子ゟ之て告可不孔子曰まはく吾大夫之後よ従ふを以て敢て告不バのら不

國立國會圖書館藏

告不ㇾ能ハ而已ざるなりとぞ

○子路問事君子曰勿欺也而犯之

子路の問なり臣の君ふつゝかろうからハいうや聖人を欺むき罔てハ君を欺むき罔てよろしからず得ざるとハ忠諫耳に御叓て諫むべしとぞ

○子曰君子上達小人下達

聖人の仰せに君子徳を日々に

ふなくふる事ハつゝまれて已が心に勝てあさハどと正をざゆへよ次第に徳上達をうこへ達をなり小人ハ私の欲といふ者にくまされて已が心に勝てあさハど制ㇾをざゆへよ次第に徳下をこゝに達をうなり

○子曰古之學者爲己今之學者爲人

後の世わざ〳〵軽薄になり誠すく昔に及ハず古之学問をする者ハ

事ㇾ〳〵かまるび已が徳を妍人為ようとする今の人の学問となんハりつゝ世よ誘人への聞へ名の為よ

○蘧伯玉使人於孔子

伯玉ハ衛國の大夫にて賢人のかくれ

ある御人なりしを時節のうゞひよ使の人をおくゝセなり

孔子與之坐而問焉曰夫子何爲對曰夫子欲寡其過而未能也使者出子曰使乎使乎

聖人使者と對坐あり台使者に詞をかけ奉ふつるよハ主人常にや其えの主君伯玉夫子ハ常に何をか心よ為ひつゝ戒むべきとなりて台使者に奉ふつるよハ主人常にや使者ふてもあり寡カこようと心ざけられん然ざる未ふそのごとく能がゝと

子貢曰夫子自道

子貢人を方ぶ
子曰賜ハ賢なる乎哉夫
我ハ則ハう暇まあらず

憂不知者不惑
不勇者ハ懼不

君子の道ハ三我
能ざること無仁者
ハ憂不知者不惑
不勇者ハ懼不

其位に在不ば其
政ごとを謀らず
曾子の曰く君子
ハ思ふこと其位よう
出さず
君子ハ其言を恥
て其行なひを
過ぎ

吾そのくちしねに義相まんで使者に
跡うて聖人の心あく誠よ主人徳あるとハ其使者も又
おくゆかしうて使なる乎と再びかへりみる乎

○子曰不在其位不謀其政

○曾子曰君子思不出其位　曾子の仰よ人ハ必ず分ことの
のうて身に不相應なることハ言ハざるべきもの故よ君子ハ自己身の居へき位より外のことを思ハざるなり

○子曰君子恥其言而過其行

君子の徳にして他の義よあらざるひとことを利口よ能らハるるものなり君子ハ行ひの
於をはごして言のうつくしひとぞ

○子曰君子道者三我無能焉仁者不

憂知者不惑勇者不懼　君子の道にたつ者三あれども

我おのれなることを能ハざるとのふたツとハ天命の理とうつ
私欲の心なくれバ心よう外ハ又物の理ハ
大てい定まりあることを知バ心の惑ふこと又今日
心ようこれを行て明日これを行て聖人の域よ
ゆくのひとつ有べきことぞ　子貢

子貢曰夫子自道也

子貢これを引て聖人の域よ学ぶ
を為ひの元ようをびむべきことぞ

○子貢方人子曰賜也賢乎哉夫我

則不暇　子貢の癖として人のあしと自身のよ
戒めのひとうくこれもまた自己うそうそびむにしかしと曰ハくその方のふるまひ誠よ
人よ賢しく故よ自己うう修行なれども自己うう修行に暇なくさうそうそ場よハらざるべきぞ

○子曰不患人之不己知患其不能也

人之己を知不を患不其不能と患

○子曰不逆詐不億不信抑亦先覺者是賢乎

詐りを逆へ不信を億ら不抑亦先覺者是賢乎

微生畝孔子ふ謂て曰く丘何為是栖栖たる者與乃ち佞を為と無乎

孔子曰まハく敢て佞を為よ非を固と疾む

驥ハ其力と稱ゼ不其徳を稱を

○子曰不患人之不己知患其不能也

人ようの己が徳あるとを知ざるを心を患ことなくそれようハ身の脩行のうへるを患ざるべきことを患べきなり

○子曰不逆詐不億不信抑亦先覺者是賢乎

詐ハ他人ようの我を詐ることもそ信向セざるにてもなく何ともそれよ我意をもハーて詐りやと逆へ億ふ不信向なるやと不信ハようの人よあーうと定て胸中覺ある賢者ゆえ我意を用ざるのこそ人とハヤべきなり賢徳のことぞ

○微生畝謂孔子曰丘何為是栖栖者與無乃為佞乎

微生畝ハようのつくりの人よあーうと世の人のさまよりふところの詞ぞ〳〵大仁徳をいまざ知ざるーゆえ今ふところのうさて聖人世をそるれ隠ともひりのなり然ども聖人世の人のさまざまなるに世の中を栖栖もやって日を送るやまれ乃ち佞ともいふべき

敢為佞也疾固也

聖人の御こゝへ自ぜんに覺ん御徳ふられて何となーに戒ものゝ御仰ようにハあらねども敢て佞口をはそれ只常人ハ私欲といふ一ツよりくひきて五常の仁ようの心をさゝ向ざる又その方の如き知ある人ハ自ふ〳〵知を誇り身をたのふ〳〵世をすゝ〳〵なり何も賢と不徳とたゞひあれともこゝ一ツもるゝを固らざふ守つゝく善ともよふれ是を心疾き事にやらひ何とぞ直んとかくのごとくの疾を

○子曰驥不稱其力稱其徳也

聖人のふよふ古昔千里の

或ひとの曰く徳を以て怨に報ひば何如
何を以て徳に報ひん

直を以て怨に報ひ徳を以て徳に報ゆ

我を知と莫らん夫

子貢曰く何為ぞ其子を知と莫らん子曰まハく天を怨ず人を尤めず下学して上達す我を知者ハ其天乎

○或曰以徳報怨何如

或ひと曰く人ハ何を以て報んや

以徳報怨

怨に相對するおハ正直を用ゆべし私の心なるべからず又徳をうけしものなり又徳をうけしものなり同しく徳を以てなすべきのなり

子曰何以報直

子曰何を以てか直に報ゆる

以直報怨以徳報徳

直を以て怨に報ひ徳を以て徳に報ゆ

○子曰莫我知也夫

聖人のおハしの心を世に知りがたきを子貢の問を引出せるなり

子貢曰何為其莫知子也

子貢曰何為にさハのおハしますや天下聖人を知ざるの莫と聖人こゝに於て説て其天乎

子貢之徳を聞て誠大なれども世に知ものなく徳大なるおハ人にさゞるの事あり況や

子曰不怨天不尤人下學而上達知我者其天乎

子曰ハく誠に人間にハ知人なくバ天より通ぜざることなし天を怨ることなくたゞ人間に用ゐられざるの時節あり人道にハ閉塞閑曠のうき事ありとも天ハ人の道を學で理を窮にうへ上ハ天道自然の理を達ぞ〳〵下ハ人の道を學で理を窮にうへ上ハ天道自然の理を達ぞ〳〵の場所ありて我をよく明察るゝ者ハ天の外よく知るおべき者ハあらざらんや

公伯寮子路を季孫に愬ふ子服景伯以て告曰く夫子固より惑志有り吾力猶能く諸を市朝に肆さん

道之将に行はれんとするも将に廃れんとするも命也公伯寮其命を如何

賢者ハ世を辟く

其次ハ地を辟く

其次ハ色を辟く

其次ハ言を辟く

作者七人

○公伯寮愬子路於季孫子服景伯以告曰夫子固有惑志於公伯寮吾力猶能肆諸市朝

愬の人ハ公伯寮といふ人の事を三家の季孫氏へ讒言をかゝへ御門人子路の大夫と子服景伯とて武勇なる善人あり聖人へ告奉つて曰く季孫夫子固なうとして公伯寮う讒訴に惑されーなりその志ーの悪さ公伯寮のこと吾男力を以て訴殺ーて見せーめふぞんと朝廷へ肆ーて市中

子曰道之将行也與命也道之将廃也與命也公伯寮其如命何

聖人聞のーー子服氏を喩ふて曰ハくまられ天命なう時節の至ると塞とハ誠ニ人力かゝて及ーのなうべく道の行ハるゝと将もまつく廃るゝとハ天の命なう公伯寮のうざうて吾黨を害とらゝとハ更れるーー公伯寮も尤べうべく何とかうひてかうりくと御セ

○子曰賢者辟世

此段聖人古人の行ひを

のべ給ひてかうくの如ーー

誠ニ恥王人ハ天命を諳達泰然うとめくの力でハ如何ともしてもくべうべくなうて景伯をさゝーー子路れ安心るゝーめふ

らんーなうちう大徳の賢者ハ天下に道なれバ身を潜め世の濁るをのがれさくる伯夷太公の二人これう

其次辟地

その兆をさゝて土地をさらる

其次辟色

其次ハ上ニ立つその色合を見て立さらる

其次辟言

忠説みれさうに用ゐざる時ハ立さらる

○子曰作者七人矣

右ぞれも世をのがれ土地を去られ甲乙ハあるーー

天命なうとその時ニなうべくもあハせざるぞうなう一生のやくそくぞうなうと心ニ

子路石門に宿る
晨門の曰く奚
自ぞ子路曰く
孔子自曰く是
其不可と知て之
を為者與

子磬を衛ふ擊
簣を荷て孔氏
之門を過る者有
曰く心有哉磬を
擊乎

既にして曰く鄙
哉硜硜乎して
已を知る莫斯已
而已深ければ則
ハち厲ー淺ければ
則ハち揭を

○子路宿於石門。晨門曰。奚自。子路
曰。自孔氏。曰。是知其不可而爲之者與
○子擊磬於衛。有荷簣而過孔氏
之門者曰。有心哉擊磬乎
既而曰。鄙哉。硜硜乎。莫己知也。斯已而已矣。深則厲。
淺則揭。

その気味色相とそこそこ作さるとら心なり

其の時聖人天下を周流のふ御門人子路従ひ奉
さるこのこころハ子路一人とゝゝて石門とらくる宿ろ
やどろ晨門の役人問くるハ奚自ぞと子路こゝて
孔氏より来るりのなろ晨門ゝ曰ゆろの人ぐハ今の
世よハ教誨ごとの用不可とらことを知るごろれと為
うんと称ごふ方ぐなろんと譏る晨門とハその宿の門を
守て晨ごとに啓やぐざなろうさの者ハ定て賢者れて
世の濁ろをのごまて身をかくしくるなろうえろう聖人
の御仁心厚さらりとらをなく天下ふめぐ
施をふ時節あるなーとらつとあごうん

聖人儒の國より居のふ時楽のうつこれ磬と云る者を
撃てたのーくろふ折ふ簣を荷て門前を過りの
あーこれも賢人のかくれ世をのごまー身をかくしくること
くく磬の音をきゝて常人のうの音ろろ異なるふ
ゐどろさて曰くさの磬の音色ハ心ある哉とゐあろく過行ーなろう

硜硜乎莫己知也斯已而已矣深則厲淺則揭

既ゝ過ゆさーぶさ立ゝろうて曰ゆうハ
先とろかくーて宝とまごくさんひろ世に出てうらんこ
まるハ鄙とらごくーて宝ごまごくさんひろ世に出てうらんこ
今の世れ已身を知と莫とらつのなろりくや世の中
今ハ已而已とらごくーて宝ごまごくさんひろ世に出てうらんこ
なるごくー詩経も水の深ふハ厲とゐう淺さろく衣服を掲べ
ーとある八即ハちその心とぞ聖人民を仁ひの大徳を知ざるーりの

果なる哉之難き
ことをいふと未

子張曰書云高宗諒陰三年不言
何ぞ必らずと高宗
のみならん古へ
の人皆然り君
薨れば百官
己れを總て以て
家宰に聽き三
年

上礼を好めば則
ち民使ひ易し

子路君子を問
子曰まづ己れを
脩て以て敬を
脩ると

曰く斯の如きのみ
己乎曰まづ己れを
脩めて以て人を
安んぜよ曰く斯の
如きのみ乎

決斷し果なる忘るゝ
ことの大道を
實れ天地と同じ
道なく万民治世の
憂うその仁心の深
きを

○子張曰書云高宗諒陰三年不言
何謂也子張の問なり書經殷の帝高宗御
喪中三年の間言ひ給ふ事あら
ず諒闇とハ天子務を
引せらるゝ間をいふ心なり子曰何
必高宗古之人皆然君薨百官總己
以聽於家宰三年御答何ぞ高宗のみならん
や古ハ皆然なり御喪中

○子曰上好禮則民易使上たる人礼法を
好めばなり
○子路問君子子曰脩己以敬子路君子
問奉ずる御答君子の徳とふりのハ他の義ふく
なく己身を脩るの外なし一身を脩ること
なれば敬とふの外なし言ハ直よ行ひハ正く人と交ふ
物をとりてふつゝかなるハ義にあらず不義なり
やとうく見ふれさるハなく敬とふつゝかくのごし
以安人曰如斯而已乎曰脩己
以安百姓曰如斯而已乎堯舜猶病諸
聖人ハ世を見ふる心ま
實れ天地と同じ
道なく万民治世の
憂うその仁心の深
きを

○子張曰書云高宗諒陰三年不言
何謂也子張の問なり書經殷の帝高宗御
喪中三年の間言ひ給ふ事あら
ず諒闇とハ天子務を
引せらるゝ間をいふ心なり子曰何
必高宗古之人皆然君薨百官總己
以聽於家宰三年御答何ぞ高宗のみならん
や古ハ皆然なり御喪中

○子曰上好禮則民易使上たる人礼法を
好めばなり
○子路問君子子曰脩己以敬子路君子
問奉ずる御答君子の徳とふりのハ他の義ふく
なく己身を脩るの外なし一身を脩ること
なれば敬とふの外なし言ハ直よ行ひハ正く人と交ふ
物をとりてふつゝかなるハ義にあらず不義なり
やとうく見ふれさるハなく敬とふつゝかくのごし
以安人曰如斯而已乎曰脩己
以安百姓曰如斯而已乎堯舜猶病諸
聖人ハ世を見ふる心ま
實れ天地と同じ
道なく万民治世の
憂うその仁心の深
きを

曰まハく己と脩めて以て百姓を安んぜんハ堯舜も其猶病ん諸

原壤夷して俟子曰まハく幼にして孫弟ならず長じて述る無く老て死不是と賊い為杖を以て其脛を叩く

闕黨の童子命を將なふ或ひと之と問て曰く益者與

吾其位に居ると見其先生與ひ行を見益と求もる者に非ざる速

心よふくなるやうに道さぐ如斯而已ともる時ハ徳内よとし然バ人ぐ安んぜんなるやと御答已身を脩られ敬をもくなるやうにやひてなぐ如斯の二ケ条而已ともくなるやうにと充くて宜さを人に及ーのふ御教のなぐ如斯の二ケ条而已ともくなるやうにと充くて宜さを人に及ーのふ御教の

堯舜其猶病諸

脩己以安百姓

天下平うなる事ハ聖人なりん諸とならう聖人ユ夫をなさーらるの御教なう

○原壤夷俟子曰幼而不孫弟長而無述焉老而不死是爲賊以杖叩其脛

原壤ハ聖王人のふるた友なう老子の学流のよう聖人のあやこ来うみを見うけまさしれ礼法とやづて足をなけいざーと夷こて相俟るさう聖人ゆひうまうのふ元来原壤ハその母の死去の時さも歌をうたひーものまて老氏佛氏とてさう過るとうふ類なう依て曰ハくうんだ幼少より孫弟なくば年長てもると義理なることハ一つも述ることなう剰さえ年老て死るもぞでゆふ杖を以てその脛を叩ふ

○闕黨童子將命或問之曰益者與

闕黨とらくろ邑の書生なう聖王人の命令を相通ずる役を蒙るゆへ命をなうん依て聖王人へたづひ奉さつる中のふ次第ある人の心よろのりの定て学問の道ゆ進て益ある者

於位也見其與先生並行也非求益者

やうふ成と欲するの者也

也欲速成者也 禮法に曰く童子さる者ハ隅の位に坐ふくつもむ人の童子を引隨て行ものなりさて聖人の御咎品もの有ても猶ハど已が位に居てて先生と倶ならび行て辭退をるの意なり一詰れ身の為に益と求ることハ〳〵へど只速を成就せんと欲をるのなり

佛らる聖王人此ゆへ寶客ふまてさぐひ給仕して手揖るゝびに遜讓の道を卑へなふ快して御寵愛の他に異〳〵るれハ

論語卷之三畢